

調 査 結 果

I 多摩川沿域の植物のあらまし

沿域の概況

福生市は都市化による開発が進み、多摩川沿域も市街化によって大きく変わり、その影響で植物相の上にも変化が見受けられる。しかし、今回、調査対象とした木本類、竹類は、団地造成の行われた水田地区とはかかわり合いが少なく、現在のところは殆んどその影響を受けずに済んでいる。調査地域全体の「みどり」の分布（第2図参照）の上から見ると、造成地区部分に生育する草本類は、量の上からも、種類の上からも大きく変ってしまっている。やがて、樹木についても、林相の変化としてあらわれてくることが予想される。多摩川沿域に野生する植物は、上水岸、段丘崖および多摩川岸の三つの植物帯上に林生地を形成している。これらの植物帯の中には、一部において公園化された部分（柳山公園、南緑地公園など）もあるが、これらの場所を除けば野生あるいは野生化した植物が生育している。しかし、多摩川沿域として樹木構成を考えると、植栽樹の植樹量も無視することはできない。この沿域の「みどり」を支えているものは野生する植物に限られているわけではなく、植栽樹もまた一つの役割を果たしているからである。両者の植物を調査してこそ、その全貌を明らかにすることができ、その実態に近づくことができる。

自然分類と生活型

調査した結果によると、予想外に多くの種類のあることが確認された。これを植物の自然分類に従ってまとめると、木本類、竹類をあわせると305種類、そのうちで裸子植物が37種類（12.1%）、被子植物が268種類（87.9%）であった。

第1表 自然分類と種類数

区分	門	綱	目	科	種	亜種以下	種 類	
							種類数	百分比
種	裸子植物	い ち ょ う	1	1	1	0	1	0.3 %
		球 果 植 物	2	6	24	12	36	11.8 %
		計	3	7	25	12	37	12.1 %
子	被子植物	双 子 葉 植 物	14	46	175	24	199	65.3 %
		離 弁 花	6	13	46	12	58	19.0 %
		合 弁 花	3	3	10	1	11	3.6 %
		単 子 葉 植 物	3	3	10	1	11	3.6 %
植 物	合 計	計	23	62	231	37	268	87.9 %
		合 計	26	69	256	49	305	100 %

これらの植物のうちで最も多かったのはバラ科の35種で、それについてスイカズラ科、ヒノキ科およびブナ科の各15種類となっている。調査で確認することのできた69科全部について、この関係を見ると、第2表のようにまとめることができるが、全科数の約 $\frac{1}{3}$ の21科は1科1種であった。

第2表 種類数と科名

出現種類数	該当する科	
	科数	科名
1	21	アオギリ・アゲビ・イイギリ・イチヨウ・エゴノキ オトギリソウ・キブツ・キョウチクトウ・ギョリュウ ゴマノハグサ・ザクロ・サルナシ・センダン・センリョウ トベラ・ナス・フトモモ・ミソハギ・ツクバネウツギ ムクロジ・リョウブ
2	15	アオイ・イヌガヤ・カキノキ・グミ・クロウメモドキ ジンチョウゲ・スズカケノキ・ツゲ・ニガキ・ハイノキ マキ・マンサク・ヤシ・ヤブコウジ・ヤマグルマ
3	5	イチイ・クルミ・ニレ・メギ・ユリ
4	4	アカネ・ウコギ・スギ・ブドウ
5	5	ウルシ・クスノキ・クマツヅラ・クワ・トウダイグサ
6	8	イネ・カバノキ・ツバキ・ニシキギ・ミカン・ミズキ モチノキ・ユキノシタ
8	3	カエデ・モクレン・ヤナギ
10	1	マツ
11	1	モクセイ
12	1	ツツジ
13	1	マメ
15	3	スイカズラ・ヒノキ・ブナ
35	1	バラ

こうした自然分類とは別に樹木の生活型の面から分けて見ると、全305種類のうち樹木類が299種類(98.0%)、竹類が6種類(2%)の割合になり、個体数から見ると樹木類が25,250本(89.3%)、竹類3,034本(10.7%)である。樹木類を更に常緑樹と落葉樹に分けて比較すると、種類数では約1:2の比で落葉樹が多く個体数では約1:2.5で量的にも一層落葉樹の方が多くなることになる。第3表に見られるこのような関係は、1種あたり個体数で落葉樹の方が勝っていることを示したものである。

自然分類、生活型分類から見た場合、種類数が比較的によく(305種)、その中心は当然のことながら被子植物で、そのうちバラ科の植物が群をぬいて多く(35種類)、個体数の上では落葉樹が最も多く(62.5%)生育しており、中心的存在をなしている。

第3表 常緑・落葉別の樹木量および竹類の現存量

区分	種類	百分比	個体数	百分比	
樹木類	常緑樹	96	31.5%	7,584	26.8%
	落葉樹	203	66.5%	17,666※	62.5%
竹類(常緑)	6	2.0%	3,034	10.7%	
総計	305	100%	28,284	100%	

※ アズマネザサ、オカメザサ、クマザサは個体数を数えられないので除いてある。

生育地と植物量

多摩川沿域の各地に生育し、植栽されている305種、総数約28,000本の樹木類、竹類の分布のし方は第4表に掲げたようになっている。野生する植物と植栽されている植物とに二大別して見ると、野生する植物が21,698本(76.7%)、217種類で、植栽されている植物が6,586本(23.3%)、181種類である。

これらの植物量を生活型の側面から見ると、野生の場合には常緑樹に対し落葉樹の割合(以後これを常落比という)が個体数で約3.2倍、種類数で約2.5倍となっているが、植栽樹の場合を常落比で見れば落葉樹は個体数で約1.1倍、種類数で約1.6倍となる。このように、野生する植物と植栽された植物とでは同じ樹木構成を示すわけではない。生育する場所、植栽の場所、目的などによって様相を異にしている。第4表では、植栽樹の場所を三つに分けてあるが、これを見てもその点をうかがいしることができる。一般的に植栽樹の場合には、個体数にくらべて種類が多く、学校などでは落葉樹が、社寺関係では常緑樹の多い傾向をもっている。野生地に見られる林相のちがいは、主として生育環境のちがいからくと考えられ、最近では特に環境条件の変化が急速であり、その中には人為的要因(交通網、生活廃棄物など)と自然的要因(段丘崖の崩壊、湧水の減少、枯渇など)が入り乱れており、野生地区の立地条件が次第に悪化しつつある。

第4表 多摩川沿域の樹木・竹類の地区別現存量

1. 個体数

区分	総本数		樹木類				竹類		樹木竹類			
	本	%	本	%	常緑樹本 %	落葉樹本 %	落葉/常緑 本 %	本 %	竹類			
野生地	21,698	76.7	19,019	75.3	4,546	59.9	14,473	81.9	3.18	2,679※	88.3	7.10
社寺	1,287	4.6	932	3.7	567	7.5	365	2.1	0.64	355	11.7	2.63
小学校	1,376	4.9	1,376	5.5	740	9.8	636	3.6	0.86	—	—	—
公園・緑地・遊園地	3,923	13.9	3,923	15.5	1,731	22.8	2,192	12.4	1.27	※	—	—
計	28,284	100	25,250	100	7,584	100	17,666	100	2.33	3,034	100	8.32

※竹類のうち、アズマネザサ、オカメザサ、クマザサは特定の場合を除き個体数を数えられないのでこの数値に加えていない。

2. 樹種数

区分	総種数		樹木類				竹類		樹木竹類		
	種	%	種数	%	常緑樹種 %	落葉樹種 %	落葉/常緑 種 %	種 %	竹類		
野生地	217	71.2	212	70.9	61	63.5	151	74.4	2.48	5	83.3
社寺	97	31.8	92	30.8	43	44.8	49	24.1	1.14	5	83.3
小学校	127	41.6	127	42.5	55	57.3	72	35.5	1.31	—	—
公園・緑地・遊園地	89	29.2	89	29.8	41	42.7	48	23.7	1.17	—	—
計	305	100	299	100	96	100	203	100	2.11	6	100

II 多摩川沿域植物目録

植物の自然分類の区分に従って、多摩川沿域の樹木、竹類の305種類の目録を掲げる。この植物目録には種類に一連番号をつけ、和名一覧（ア、イ、ウ…順）、学名一覧（A、B、C…順）にその番号を載せ索引の便宜とした。

種類名の記載は、特別に誤称と思われるものを除き、一般的になじみのある呼称を用いるようにつとめた。主要参考図書名は次のようなものである。

- 牧野・新日本植物図鑑（牧野；1970年）
 日本木材大図鑑（貴島・岡本・林；1962年）
 原色日本植物図鑑・木本編I（北村・村田；1974年）
 原色日本樹木図鑑（北村・岡本；1972年）
 原色樹木検索図鑑（矢野・石戸；1964年）
 庭木と緑化樹I・II（飯島・安蒜；1974年）

植 物 目 録

SPERMATOPHYTA 種子植物	7	<i>Cephalotaxus drupacea</i> Sieb. et Zucc.
GYMNOSPERMAS 裸子植物		イヌガヤ
Ginkgopsid イチョウ植物	8	C.
Ginkgoales イチョウ目		var. <i>koraiana</i> Makino チョウセンマキ
Gynkgoaceae イチョウ科		
1 <i>Ginkgo biloba</i> L. イチョウ		
Coniferopsida 球果植物		Pinales マツ目
Taxales イチイ目		Pinaceae マツ科
Taxaceae イチイ科		9 <i>Abies firma</i> Sieb. et Zucc. モミ
2 <i>Taxus cuspidata</i> Sieb. et Zucc. イチイ	10	<i>Cedrus Deodara</i> Loud. ヒマラヤスギ
3 T.	11	<i>Larix leptopis</i> Murray. カラマツ
var. <i>umbraculifera</i> Makino キャラボク	12	<i>Picea excelsa</i> Link. ドイツトウヒ
4 <i>Toreya nucifera</i> Sieb. et Zucc. カヤ	13	P. <i>jezoensis</i> Carr. エゾマツ
Podocarpaceae マキ科	14	P.
5 <i>Podocarpus chinensis</i> Wall ラカンマキ		var. <i>hondoensis</i> Rehd. トウヒ
6 P. <i>macrophylla</i> D. Don イヌマキ	15	<i>Pinus australis</i> Michx. ダイオウショウ
Cephalotaxaceae イヌガヤ科	16	P. <i>densiflora</i> Sieb. et Zucc. アカマツ
	17	P. <i>pentaphylla</i> Mayr.
		var. <i>Himekomatsu</i> Makino ゴヨウマツ

- 18 *P. Thunbergii* Parl. クロマツ
ネズミサシ
- Taxodiaceae スギ科
- 19 *Cryptomeria japonica* D. Don スギ
ニオイヒバ
- 20 *Cunninghamia Konishii* Hayata
ネズコ
ランダイスギ
アスナロ
- 21 *C. lanceolata* Hook.
コウヨウザン
- 22 *Metasequoia glyptostroboides* Huet
Cheng
メタセコイヤ
- Cupressaceae ヒノキ科
- 23 *Chamaecyparis obtusa* Sieb. et Zucc.
ヒノキ
- 24 *C.*
var. *brevilamea* Mast. チャボヒバ
- 25 *C.*
var. *pendula* Mast. スイリュウヒバ
- 26 *C. pisifera* Sieb. et Zucc.
サワラ
- 27 *C.*
var. *filifera* Beiss. et Hochst.
ヒヨクヒバ
- 28 *C.*
var. *plumosa* Beiss. シノブヒバ
- 29 *C.*
var. *squarrosa* Beiss. et Hochst.
タマヒムロ
- 30 *Juniperus chinensis* L. イブキ
- 31 *J.*
var. *globosa* Hornib. タマイブキ
- 32 *J.*
var. *Kizuka* Hort. カイズカイブキ
- 33 *J.*
var. *procumbens* Endl. ハイビャクシン
- 34 *J. rigida* Sieb. et Zucc.
- 35 *Thuja occidentalis* Linn.
- 36 *T. standishii* Carr.
- 37 *Thujopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.
- ANGIOSPERMAE 被子植物
- Dictyledoneae 双子葉植物
- Archichlamydeae 離弁花類
- Piperales コショウ目
- Chloranthaceae センリョウ科
- 38 *Chloranthus glaber* Makino センリョウ
- Salicales ヤナギ目
- Salicaceae ヤナギ科
- 39 *Populus Maximowczii* Henry ドロノキ
- 40 *P. nigra* Linn.
var. *italica* Moench ポプラ
- 41 *Salix babylonica* L. シダレヤナギ
- 42 *S. glandulosa* Seemen マルバヤナギ
- 43 *S. integra* Thunb. イヌコリヤナギ
- 44 *S. Kinuyanagi* Kimura キヌヤナギ
- 45 *S. Malsudana* Koidz.
var. *tortuos* Vilmorin ウンリュウヤナギ
- 46 *S. triandra* L.
var. *discolor* Anders タチヤナギ
- Juglandales クルミ目
- Juglandaceae クルミ科
- 47 *Juglans mandshrica* Maxim.
var. *Sieboldiana* Makino オニグルミ
- 48 *J. regia* Linn.
var. *orientis* Kitamura カシグルミ
- 49 *Pterocarya rhoufolia* Sieb. et Zucc.

- 93 Benzoin glaucum Sieb. ヤマコウバシ
 94 B. umbellatum Rehd. クロモジ
 95 Cinnamomum Camphora Sieb. クスノキ
 96 Lauras nobilis L. ゲッケイジュ
 97 Litsea glauca Sieb. シロダモ

Rosales バラ目

Saxifragaceae ユキノシタカ科

- 98 Deutzia crenata Sieb. et Zucc. ウツギ
 99 D. Siebldiana Maxim.
 var. Dippeliana Nakai マルバウツギ
 100 Hydrangea macrophlla Seringe
 ガクアジサイ
 101 H.
 var. otaksa Makino アジサイ
 102 H. paniculata Sieb. ノリウツギ
 103 Philadelphus Satsumi Sieb. バイカウツギ

Pittosporaceae トベラ科

- 104 Pittosporum Tobira Ait. トベラ

Hamamelidaceae マンサク科

- 105 Corylopsis spicata Sieb. et Zucc.
 トサミズキ
 106 Hamamelis japonica Sieb. et Zucc.
 マンサク

Platanaceae スズカケノキ科

- 107 Platanus orientalis L. スズカケノキ
 108 P. occidentalis L.
 アメリカスズカケノキ

Rosaceae バラ科

- 109 Chaenomeles lagenaria Koidz. ボケ
 110 C. japonica Lindl. クサボケ
 111 Eriobotrye japonica Lindl. ビワ
 112 Kerria japonica DC. ヤマブキ
 113 Malus micromalus Makino カイドウ
 114 M. Toringo Sieb. ズミ

- 115 Photinia glabra Maxim. アカメモチ
 116 Pourthiaea villosa (Thunb.) Decne
 ワタゲカマツカ
 117 P.
 var. laevis (Thunb.) Stapf. カマツカ
 118 Prunus Buergeriana Miq. イヌザクラ
 119 P. donarium Sieb. サトザクラ
 120 P.
 var. spontanea Makino ヤマザクラ
 121 P. Grayana Maxim. ウワミズザクラ
 122 P. incisa Thunb. マメザクラ
 123 P. Itosakura Sieb. シダレザクラ
 124 P. japonica Thunb. ニワウメ
 125 P. Mume Sieb. et Zucc. ウメ
 126 P.
 var. purpurea Makino コウバイ
 127 P. Persica Batsch. モモ
 128 P. subhirtella Miq. ヒガンザクラ
 129 P. tomentosa Thunb. ユスラウメ
 130 P. yedoensis Matsum. ソメイヨシノ
 131 Pyracantha angustifolia Schneid
 タチバナモドキ
 132 Pyrus Simonii Carr. ナシ
 133 Rhamphinolespis umbellata Makino
 var. Martensii Makino シャリンバイ
 134 Rosa hibride Hort. セイヨウバラ
 135 R. multiflora Thunb. ノイバラ
 136 Rubus hirsutus Thunb. クサイチゴ
 137 R. morifolius Sieb. クマイチゴ
 138 R. palmatum Thunb.
 forma coptophyllus Makino
 キイチゴ
 139 Sorbus commixta Hedlund ナナカマド
 140 Spiraea cantoniensis Lour. コデマリ
 141 S. japonica L. fil. シモツケ

- 142 S. Thunbergii Sieb. ユキヤナギ
- 143 Stephanandra incisa (Thunb.)
Zabel. コゴメウツギ
- Leguminosae マメ科
- 144 Albizzia Julibrissin Durazz.
ネムノキ
- 145 Caragana Chamlaqu Lam. ムレスズメ
- 146 Cercis chinensis Bunge ハナズオウ
- 147 Cytisus scoparius Link. エニシダ
- 148 Gleditchia japonica Miq. サイカチ
- 149 Lespedeza Buergeri Miq. キハギ
- 150 L. cyrtobotrya Miq. マルハハギ
- 151 L. Thunbergii Nakai
ミヤギノハギ
- 152 Maackia amurensis Rupr. et Maxim.
var. Buergeri C. K. Schneid.
イヌエンジュ
- 153 Millettia japonica A. Gray. フジ
- 154 Pueraria hisuta Matum. クズ
- 155 Robinia pseudo-Acacia L.
ハリエンジュ
- 156 Sophora japonica L. エンジュ
- Geraniales フウロウソウ目
- Rutaceae ミカン科
- 157 Citrus Junos Tanaka ユズ
- 158 C. Unshiu Marcov. ミカン
- 159 Fagara schinifolia, Engl. イヌザンショウ
- 160 Orixa japonica Thunb. コクサギ
- 161 Poncirus trifoliata Rafin. カラタチ
- 162 Xanthoxylum piperitum DC. サンショウ
- Simaroubaceae ニガキ科
- 163 Ailanthus altissima Swing le.
シンジュ
- 164 Picrasma quassloides Benn ニガキ
- Meliaceae センダン科
- 165 Melia Azedarch L.
var. japonica Makino センダン
- Euphorbiaceae トウダイグサ科
- 166 Alchornea trewioides Muell. Arg.
オオベニガシワ
- 167 Daphniphyllum glaucescens Blume
ヒメユズリハ
- 168 D. macropodum Miq. ユズリハ
- 169 D. var. viridipes Nakai アオジュクユズリハ
- 170 Mallotus japonicus Muell. Arg.
アカメガシワ
- Sapindales ムクロジ目
- Buxaceae ツゲ科
- 171 Buxus microphylla Sieb. et Zucc.
クサツゲ
- 172 B. var. suffruticosa Makino ツゲ
- Anacardiaceae ウルシ科
- 173 Rhus javanica L. ヌルデ
- 174 R. succedance L. ハゼノキ
- 175 R. sylvestris Sieb. et Zucc.
ヤマハゼ
- 176 R. trichocarpa Miq. ヤマウルシ
- 177 R. verniciflua Stokes. ウルシ
- Aquifoliaceae モチノキ科
- 178 Ilex crenata Thunb. イヌツゲ
- 179 I. form. bullata Rehder マメツゲ
- 180 I. integra Thunb.モチノキ
- 181 I. macropoda Miq. アオハダ
- 182 I. rotunda Thunb. クロガネモチ
- 183 I. serrata Thunb.

var. *Sieboldii* Loesn ウメモドキ

Celastraceae ニシキギ科

184 *Celastrus orbiculatus* Thunb.
ツルウメモドキ

185 *Euonymus alata* Sieb. ニシキギ

186 E. *japonica* Thunb. マサキ

187 E. *oxyphylla* Miq. ツリバナ

188 E. *planipes* Koehne オオツリバナ

189 E. *Sieboldiana* Blume マユミ

Staphyleaceae ミツバウツギ科

190 *Euscaphis japonica* Pax. ゴンズイ

Aceraceae カエデ科

191 *Acer trifidum* Hook. et Arm. トウカエデ

192 A. *cissifolium* K. Kock. ミツデカエデ

193 A. *mono* Maxim. イタヤカエデ

194 A.
var. *dissectum* Wesmael エンコウカエデ

195 A. *Sieboldianus* Miq. イタヤメイゲツ

196 A. *palmatum* Thunb. タカオモミジ

197 A.
var. *dissectum* Koidz. ベニシダレ

198 A.
var. *Matumurae* Makino ヤマモミジ

Sapindaceae ムクロジ科

199 *Sapinodus Mukurossi* Gaertn. ムクロジ

Rhamnales クロウメモドキ目

Rhamnaceae クロウメモドキ科

200 *Berchemia reacesosa* Sieb. et Zucc.
クマヤナギ

201 *Hovenia dulcis* Thunb. ケンボナシ

Vitaceae ブドウ科

202 *Ampelopsis hterophylla* Sieb. et
Zucc. ノブドウ

203 *Parthenocissus tricuspidata* Planch.

ナッツタ

204 *Vitis Coignetiae* Pulliat. ヤマブドウ

205 V. *Thunbergii* Sieb. et Zucc.
エビヅル

Malvales アオイ目

Malvaceae アオイ科

206 *Hibiscus mutabilis* L. フヨウ

207 H. *syriacus* L. ムクゲ

Sterculiaceae アオギリ科

208 *Firmiana simplex* W. F. Wight. アオギリ

Parietales 側膜胎座目

Actinidiaceae サルナシ科

209 *Actinidia arguta* Planch. サルナシ

Theaceae ツバキ科

210 *Camellia japonica* Linn. ヤブツバキ

211 C. *Sasanqua* Thunb. サザンカ

212 *Cleyera ochracea* DC. サカキ

213 *Eurya japonica* Thunb. ヒサカキ

214 *Ternstroemia japonica* Thunb. モッコク

215 *Thea sinensis* L. チャ

Guttiferae オトギリソウ科

216 *Hypericum chinense* L. ビヨウヤナギ

Tamaricaceae ギョリュウ科

217 *Tamarix chinensis* Lour. ギョリュウ

Flacourtiaceae イイギリ科

218 *Idesia polycarpa* Maxim. イイギリ

Stachyuraceae キブシ科

219 *Stachyurus praecox* Sieb. et Zucc.
キブシ

Myrtiflorae テンニン目

Thymelaeaceae ジンチョウゲ科

220 *Daphne odora* Thunb. ジンチョウゲ

221 *Edgeworthia papyrifera* Sieb. et
Zucc. ミツマタ

Elaeagnaceae グミ科

222 *Elaeagnus multiflora* Thunb. ナツグミ

223 *E. umbellata* Thunb. アキグミ

Lythraceae ミソハギ科

224 *Lagerstroemia indica* L. サルスベリ

Punicaceae ザクロ科

225 *Punica Granatum* L. ザクロ

Myrtaceae フトモモ科

226 *Eucalyptus viminalis* Labill. ユウカリ

Umbelliflorae 傘形科目

Araliaceae ウコギ科

227 *Acanthopanax Sieboldianus* Makino

ウコギ

228 *Aralia elata* Seem. タラノキ

229 *Fatsia japonica* Dence. et Planch.

ヤツデ

230 *Hedera shombea* Sieb. et Zucc. キヅタ

Cornaceae ミズキ科

231 *Aucuba japonica* Thunb. アオキ

232 *Cornus brachypoda* C. A. Mey.

クマノミズキ

233 *C. controversa* Hemsl. ミズキ

234 *C. florida* L. ハナミズキ

235 *C. Kousa* Buerg. ヤマボウシ

236 *C. officinalis* Sieb. et Zucc.

サンシュ

Sympetalae 合弁花類

Ericales ツツジ目

Clethraceae リョウブ科

237 *Clethra barbinervis* Sieb. et Zucc.

リョウブ

Ericaceae ツツジ科

238 *Enkianthus perulatus* C. K. Schn.

ドウダンツツジ

239 *Pieris elliptica* Nakai ネジキ

240 *P. japonica* D. Don アセビ

241 *Rhododendron* ツツジ

242 *R. cbtusum* Planch.

var. *Kaempferi* Wils ヤマツツジ

243 *R. dilatatum* Miq.

ミツバツツジ

244 *R. lateritium* Planch.

サツキ

245 *R. obtusum* Planch.

キリシマ

246 *R. pulchrum* Seet.

オオムラサキ

247 *R. quinquefolium* Biss. et

Moore

ゴヨウツツジ

248 *Vaccinium ovalifolium* Smith クロウソグ

249 *V. Smallii* A. Gray

var. *glabrum* Koidz. スノキ

Primulales サクラソウ目

Myrsinaceae ヤブコウジ科

250 *Ardisia crispa* A. DC. マンリョウ

251 *A. japonica* Bl. ヤブコウジ

Ebenales カキノキ目

Ebenaceae カキノキ科

252 *Diospyros Kaki* L. fil. カキ

253 *D. Morrisiana* Hance マメガキ

Symplocaceae ハイノキ科

254 *Symplocos argutidens* Nakai

タンナサワフタギ

255 *S. paniculata* Miq. サワフタギ

Styracaceae エゴノキ科

256 *Styrax japonica* Sieb. et Zucc.

エゴノキ

Contortae 回旋花目

Oleaceae モクセイ科

257 *Foroythia suspensa* Vahl. レンギョウ

258 *Fraxinus japonica* Blume. トネリコ

259 *F. longicuspis* Sieb. et Zucc.

ヤマトアオダモ

260 *F. Sieboldiana* Blume.

form. *serrata* Murata アオダモ

261 *Ligustrum Ibot* Sieb.

var. *angustifolium* Blume イボタノキ

262 *L. japonicum* Thunb. ネズミモチ

263 *Osmanthus asiaticus* Nakai ギンモクセイ

264 *O. fortunei* Carr.

ヒイラギモクセイ

265 *O. fragrans* Lour.

var. *aurantiacus* Makino キンモクセイ

266 *O. ilicifolius* Mouillef. ヒイラギ

267 *Syringa vulgaris* L. ライラック

Apocynaceae キョウチクトウ科

268 *Nerium indicum* Mill. キョウチクトウ

Tubiflorae 管状花目

Verbenaceae クマツヅラ科

269 *Callicarpa dichotoma* Raeus.

コムラサキシキブ

270 *C. japonica* Thunb.

ムラサキシキブ

271 *C.*

var. *luxurians* Rehde

オオムラサキシキブ

272 *C. Shirasawana* Makino

イヌムラサキシキブ

273 *Clerodendron trichotomum* Thunb.

クサギ

Solanaceae ナス科

274 *Lycium chinense* Mill. クコ

Scrophulariaceae ゴマノハグサ科

275 *Paulownia tomentosa* Kanitz. キリ

Rubiales アカネ目

Rubiaceae アカネ科

276 *Gardenia jasminoides* Ellis.

forma *grandiflora* Makino クチナン

277 *G.*

forma *ovalifolia* Hara ヤエクチナン

278 *G. radicans* Thunb.

var. *simpliciflora* Nakai

ケンサキコクチナン

279 *Serissa japonica* Thunb. ハクチョウゲ

Caprifoliaceae スイカズラ科

280 *Aberia grandiflora* Rehd.

ハナヅノツクバネウツギ

281 *A. spathulata* Sieb. et Zucc.

ツクバネウツギ

282 *Lonicera gracilipes* Miq.

var. *glabra* Miq. ウグイスカズラ

283 *L. japonica* Thunb. スイカズラ

284 *L. Morrowii* A. Gray.

ヒョウタンボク

ヒョウタンボク

285 *Sambucus Sieboldiana* Blume ニワトコ

286 *Viburnum dilatatum* Thunb. ガマズミ

287 *V. erosum* Thunberg

コバノガマズミ

288 *V. lomentosum* Thunb. ヤブデマリ

289 *V. odoratissimum* Ker.

サンゴジュ

290 V. *phlebotrichum* Sieb. et
Zucc. オトコヨウゾメ

291 V. *tomentosum* Thunb.
var. *plicatum* Maxim. オオデマリ

292 *Weigela coraeensis* Thunb.
ハコネウツギ

293 W. *hortensis* C. A. Mey.
タニウツギ

294 W.
forma *spontanea* Makino ベニウツギ

Monocotyledoneae 単子葉植物

Glumiflorae 穎果目

Gramineae イネ科

295 *Phyllostachys edulis* A. et C. Riv.
モウソウチク

296 P. *reticulata* C. Koch
マダケ

297 *Pleioblastus Chino* Makino アズマネザサ

298 *Pseudosasa purpurascens* Makino
ヤダケ

299 *Sasa albo-marginata* Makino et
Shibata クマザサ

300 *Shibataea Kumasasa* Makino オカメザサ

Palmales ヤシ目

Palmae ヤシ科

301 *Trachycarpus excelsa* Wendl. シュロ

302 T.
var. *Fortunei* Makino トウジュロ

Liliiflorae ユリ目

Liliaceae ユリ科

303 *Ruscus aculeatus* L. ナギイカダ

304 *Smilax china* L. サルトリイバラ

305 *Yucca recurvifolia* Salisb. キミガヨラン

和 名 一 覧 (ア、イ、ウ、エ、オ順)

数字は植物目録番号

ア	
アオキ	231
アオギリ	208
アオジクユズリハ	169
アオダモ	260
アオナラガシワ	62
アオハダ	181
アカシデ	54
アカマツ	16
アカメガシワ	170
アカメモチ	115
アキグミ	223
アケビ	89
アジサイ	101
アスナロ	37
アセビ	240
アベマキ	69
アメリカスズカケノキ	108
アラカシ	64

イ	
イイギリ	218
イタヤカエデ	193
イタヤメイゲツ	195
イチイ	2
イチジク	76
イチヨウ	1
イヌエンジュ	152
イヌガヤ	7
イヌユリヤナギ	43
イヌザクラク	118

イヌザンショウ	159
イヌシデ	55
イヌツゲ	178
イヌマキ	6
イヌムラサキシキブ	272
イブキ	30
イボタノキ	261

ウ	
ウグイスカグラ	282
ウコギ	227
ウツキ	98
ウバメガシ	66
ウメ	125
ウメモドキ	183
ウラジロガシ	68
ウルシ	177
ウワミズザクラ	121
ウンリュウヤナギ	45

エ	
エゴノキ	256
エゾマツ	13
エニシダ	147
エノキ	72
エビヅル	205
エンコウカエデ	194
エンジュ	156

オ	
オオツリバナ	188

オオデマリ	291
オオベニガシワ	166
オオムラサキ	246
オオムラサキシキブ	271
オトコヨウゾメ	290
オニグルミ	47

カ

カイズカイブキ	32
カイドウ	113
カキ	252
ガクアジサイ	100
カシグルミ	48
カジノキ	75
カシワ	63
ガマズミ	286
カマツカ	117
カヤ	4
カラタチ	161
カラマツ	11

キ

キイチゴ	138
キツタ	230
キヌヤナギ	44
キハギ	149
キブシ	219
キミガヨラン	305
キアラボク	3
キョウチクトウ	268
ギョリュウ	217
キリ	275
キリシマ	245
キンモクセイ	265
ギンモクセイ	263

ク

クコ	274
クサイチゴ	136
クサギ	273
クサツゲ	171
クサボケ	110
クスノキ	95
クズ	159
クチナシ	276
クマノミズキ	60
クマヤナギ	137
クリ	52
クロウスゴ	232
クロガネモチ	182
クロマツ	18
クロモジ	94
クワ	77

ケ

ゲッケイジュ	96
ケヤキ	73
ケンサキコクチナシ	278
ケンボナシ	201

コ

コウゾ	74
コウバイ	126
コウヨウザン	21
コクサギ	160
コゴメウツギ	143
コデマリ	140
コナラ	67
コバノガマズミ	287
コブシ	84
コムラサキシキブ	269

ゴヨウツツジ	247
ゴヨウマツ	17
ゴンズイ	190

サ

サイカチ	148
サカキ	212
ザクロ	225
サザンカ	211
サツキ	244
サトザクラ	119
サネカズラ	80
サルスベリ	224
サルトリイバラ	304
サルナシ	209
サワグルミ	49
サワシバ	53
サワフタギ	255
サワラ	26
サンゴジュ	289
サンシュ	236
サンショウ	162

シ

シキミ	78
シダレザクラ	123
シダレヤナギ	41
シデコブシ	86
シノブヒバ	28
シモクレン	85
シモツケ	141
シャリンバイ	133
シユロ	301
シラカシ	65
シラカバ	51

シロダモ	97
シンジュ	163
ジンチョウゲ	220

ス

スイカズラ	283
スイリュウヒバ	25
スギ	19
スズカケノキ	107
スダジイ	70
スノキ	249
ズミ	114

セ

セイヨウバラ	134
センダン	165
センリョウ	38

ソ

ソメイヨシノ	130
--------	-----

タ

ダイオウショウ	15
タイサンボク	83
タカオモミジ	196
タチバナモドキ	131
タチヤナギ	46
タニウツギ	293
タマイブキ	31
タマヒムロ	29
タラノキ	228
タンナサワフタギ	254

チ

チヤ	215
----	-----

チヤボヒバ	24
チョウセンマキ	8

ツ

ツクバネウツギ	281
ツゲ	172
ツツジ	241
ツブラジイ	57
ツリバナ	187
ツルウメモドキ	184

ト

ドイツトウヒ	12
トウカエデ	191
トウジュロ	302
ドウダンツツジ	238
トウヒ	14
トサミズキ	105
トネリコ	258
トベラ	104
ドロノキ	39

ナ

ナギイカダ	303
ナシ	132
ナツグミ	222
ナツツタ	203
ナナカマド	139
ナンテン	92

ニ

ニオイヒバ	35
ニガキ	164
ニシキギ	185
ニワウメ	124

ニワトコ	285
------------	-----

ヌ

ヌルデ	173
-----------	-----

ネ

ネジキ	239
ネズコ	36
ネズミサシ	34
ネズミモチ	262
ネムノキ	144

ノ

ノイバラ	135
ノブドウ	202
ノリウツギ	102

ハ

バイカウツギ	103
ハイビヤクシン	33
ハクチョウゲ	279
ハクモクレン	82
ハコネウツギ	292
ハゼノキ	174
ハナズオウ	146
ハナゾノツクバネウツギ	280
ハナミズキ	234
ハリエンジュ	155
ハンノキ	50

ヒ

ヒイラギ	266
ヒイラギナンテン	91
ヒイラギモクセイ	264
ヒガンザクラ	128

ヒサカキ	213
ヒノキ	23
ヒマラヤスギ	10
ヒメユズリハ	167
ヒョウタンボク	284
ビョウヤナギ	216
ヒヨクヒバ	27
ビワ	111

フ

フサザクラ	87
フジ	153
ブナノキ	58
フヨウ	206

へ

ベニウツギ	294
ベニシダレ	197

ホ

ボケ	109
ホソバヒイラギナンテン	90
ポプラ	40

マ

マサキ	186
マテバシイ	59
マメガキ	253
マメザクラ	122
マメツゲ	179
マユミ	189
マルバウツギ	99
マルバハギ	150
マルバヤナギ	42
マンサク	106

マンリョウ	250
-------	-----

ミ

ミカン	158
ミズキ	233
ミズナラ	62
ミツデカエデ	192
ミツバツツジ	243
ミツマタ	221
ミヤギノハギ	151

ム

ムクゲ	207
ムクノキ	71
ムクロジ	199
ムラサキシキブ	270
ムレスズメ	145

メ

メタセコイヤ	22
--------	----

モ

モチノキ	180
モッコク	214
モミ	9
モモ	127

ヤ

ヤエクチナシ	277
ヤツデ	229
ヤブコウジ	251
ヤブツバキ	210
ヤブデマリ	288
ヤマウルシ	176
ヤマグルマ	88

ヤマグワ	78
ヤマコウバシ	93
ヤマザクラ	120
ヤマツツジ	242
ヤマトアオダモ	259
ヤマハゼ	175
ヤマブキ	112
ヤマブドウ	204
ヤマボウシ	235
ヤマモミジ	198

ユ

ユウカリ	225
ユキヤナギ	142
ユズ	157
ユスラウメ	129
ユズリハ	168
ユリノキ	81

ラ

ライラック	267
ラカンマキ	5
ランダイスギ	20

リ

リョウブ	237
------	-----

レ

レンギョウ	257
-------	-----

ワ

ワタゲカマツカ	116
---------	-----

竹 類

アズマネザサ	297
--------	-----

オカメザサ	300
クマザサ	299
マダケ	296
モウソウチク	295
ヤダケ	298

I N D E X (A、B、C……順)

数字は植物目録番号

A	
Aberia grandiflora Rehd.	280
A. spathulata Sieb. et Zucc.	281
Abies firma Sieb. et Zucc.	9
Acanthopanax Sieboldianus Makino	227
Acer trifidum Hook. et Arn.	191
A. cissifolium K. Koch.	192
A. mono Maxim.	193
A.	
var. dissectum Wessm.	194
A. Sieboldianus Miq.	195
A. palmatum Thunb.	196
A.	
var. dissectum Koidz.	197
A.	
var. Matsumurae Makino	198
Actinidia arguta Planch.	209
Ailanthus altissima Swingle.	163
Akebia quinata Decne.	89
Albizzia Julibrissin Durazz.	144
Alchornea trewioides Muell. Arg.	166
Alnus japonica Sieb. et Zucc.	50
Ampelopsis heterophylla Sieb. et Zucc.	202
Aphanatha aspera Planch.	71
Aralia elata Seem.	228
Ardisia crispa A. DC.	250
A. japonica Bl.	251
Aucuba japonica Thunb.	231
B	
Benzoin glaucum Sieb.	93
B. umbellatum Rehd.	94
Berchemia racemosa Sieb. et Zucc.	200
Betula Tauschii Koidz.	51
Broussonetia Kazinoki Sieb.	74
B. papyrifera (L.) Vent.	75
Buxus microphylla Sieb. et Zucc.	171
B.	
var. suffruticosa Makino	172
C	
Callicarpa dichotoma Raeus.	269
C. japonica Thunb.	270
C.	
var. luxurians Rehder.	271
C. Shirasaxana Makino	272
Camellia japonica Linn.	210
C. Sasanqua Thunb.	211
Caragana Chamlaqu Lam.	145
Carpinus carpinoides Makino	52
C. cordata Blume	53
C. laxiflora Blume	54
C. Tschonoshii Maxim.	55
Castanea crenata Sieb. et Zucc.	56
Castanopsis cuspidata Schottky	57
Cedrus Deodara Loud.	10
Celastrus orbiculatus Thunb.	184
Celtis sinensis Pers.	
var. japonica Nakai	72
Cephalotaxus drupacea Sieb. et Zucc.	7

C.		D	
var. koraiana Makino	8	Daphne odora Thunb.	220
Cercis chinensis Bunge	146	Daphniphyllum glaucescens Blume	167
Chaenomeles lagenaria Koidz.	109	D. macropodum Miq.	168
C. japonica Lindl.	110	D.	
Chamaecyparis obtusa Sieb. et Zucc.	23	var. viridipes Nakai	169
C.		Deutzia crenata Sieb. et Zucc.	98
var. brevilamea Mast.	24	D. Sieboldiana Maxim.	
C.		var. Dippeliana (Nakai)	99
var. pendula Mast.	25	Diospyros Kaki L. fil.	252
C. pisifera Sieb. et Zucc.	26	D. Morrisiana Hance	253
C.			
var. filifera Beiss. et Hochst.	27	E	
C.		Edgeworthia papyrifera Sieb. et Zucc.	221
var. plumosa Beiss.	28	Elaeagnus multiflora Thunb.	222
C.		E. umbellata Thunb.	223
var. squarrosa Beiss. et Hochst.	29	Enkianthus perulatus C. K. Schn.	238
Chloranthus glaber Makino	38	Eriobotrye japonica Lindl.	111
Cinnamomum Camphora Sieb.	95	Eucalyptus viminalis Labill.	226
Citrus Junos Tanaka	157	Euonymus alata Sieb.	185
C. Unshiu Marcov.	158	E. japonica Thunb.	186
Clerodendron trichotomum Thunb.	273	E. oxyphylla Miq.	187
Clethra barbinervis Sieb. et Zucc.	237	E. planipes Koehne	188
Cleyera ochnacea DC.	212	E. Sieboldiana Blume	189
Cornus brachypoda C. A. Mey.	232	Euplelaea polyandra Sieb. et Zucc.	87
C. controversa Hemsl.	233	Eurya japonica Thunb.	213
C. florida L.	434	Euscaphis japonica Pax.	190
C. Kouşa Buerg.	435		
C. officinalis Sieb. et Zucc.	436	F	
Corylopsis spicata Sieb. et Zucc.	105	Fagara schinifolia Engl.	159
Cryptomeria japonica D. Don	19	Fagus crenata Blume	58
Cunninghamia Konishii Hayata	20	Fatsia japonica Dence. et Planch.	229
C. lanceolata Hook.	21	Ficus Carica L.	76
Cytisus scoparius Link.	147	Firmiama simplex W. F. Wight.	208

Foroythia suspensa Vahl.	257
Fraxinus japonica Blume	258
F. longicuspis Sieb. et Zucc.	259
F. Sieboldiana Blume	
forma serrata Murata	260

G

Gardenia jasminoides Ellis	
forma grandiflora Makino	276
G. forma ovalifolia Hara	277
G. radicans Thunb.	
var. simpliciflora Nakai	278
Ginkgo biloba L.	1
Gleditchia japonica Miq.	148

H

Hamamelis japonica Sieb. et Zucc.	106
Hedera rhombea Sieb. et Zucc.	230
Hibiscus mutabilis L.	206
H. syriacus L.	207
Hovenia dulcis Thunb.	201
Hydrangea macrophylla Seringe	100
H.	
var. otaksa Makino	101
H. paniculata Sieb.	102
Hypericum chinense L.	216

I

Idesia polycarpa Maxim.	218
Ilex crenata Thunb.	178
I.	
forma bullata Rehder	179
I. integra Thunb.	180
I. macropoda Miq.	181

I. rotunda Thunb.	182
I. serrata Thunb.	
var. Sieboldii Loesn	183
Illicium religiosum Sieb. et Zucc.	79

J

Jaglans mandshrica Maxim.	
var. Sieboldiana Makino	47
J. regia Linn.	
var. orientis Kitamura	48
Juniperus chinensis L.	30
J.	
var. globosa Hornib.	31
J.	
var. Kaizuka Hort.	32
J.	
var. procumbens Endl.	33
J. rigida Sieb. et Zucc.	34

K

Kadsura japonica Dunal.	80
Kerria japonica DC.	112

L

Lagerstroemia indica L.	224
Larix leptopis Murray.	11
Lauras nobilis L.	96
Lespedeza Buergeri Miq.	149
L. cyrtobotrya Miq.	150
L. Thunbergii Nakai	151
Ligustrum Ibotata Sieb.	
var. angustifolium Bl.	261
L. japonicum Thunb.	262
Liriodendron tulipifera L.	81
Lithocarpus edtlis Nakai	59

<i>Litsea glauca</i> Sieb.	97
<i>Lonicera gracilipes</i> Miq.	
var. <i>glabra</i> Miq.	282
<i>L. japonica</i> Thunb.	283
<i>L. Morrowii</i> A. Gray.	284
<i>Lycium chinense</i> Mill.	274

M

<i>Maackia amurensis</i> Rupr. et Maxim.	
var. <i>Buergeri</i> C. K. Schneid.	152
<i>Magnolia denudata</i> Desr.	82
<i>M. grandiflora</i> L.	83
<i>M. Kobus</i> DC.	84
<i>M. lilliflora</i> Desrouss.	85
<i>M. stellata</i> Maxim.	86
<i>Mahonia Fortunei</i> Fedde.	90
<i>M. japonica</i> DC.	91
<i>Mallotus japonicus</i> Muell. Arg.	170
<i>Malus micromalus</i> Makino	113
<i>M. Toringo</i> Sieb.	114
<i>Melia Azedarch</i> L.	
var. <i>japonica</i> Makino	165
<i>Metasequoia glyptostroboides</i> Hu	22
et <i>cheng</i>	
<i>Millettia japonica</i> A. Gray.	153
<i>Morus bombycis</i> Koidz.	77
<i>M.</i>	
forma <i>spontanea</i> Makino	78

N

<i>Nandina domestica</i> Thunb.	92
<i>Nerium indicum</i> Mill.	268

O

<i>Orixa japonica</i> Thunb.	160
-----------------------------------	-----

<i>Osmanthus asiaticus</i> Nakai	263
<i>O. fortunei</i> Carr.	264
<i>O. fragrans</i> Lour.	
var. <i>aurantiacus</i> Makino	265
<i>O. ilicifolius</i> Mouillef	266

P

<i>Parthenocissus tricuspidata</i> .	
Planch.	203
<i>Paulownia tomentosa</i> Kanitz.	275
<i>Philadelphus Satsumi</i> Sieb.	103
<i>Photinia glabra</i> Maxim.	115
<i>Phyllostachys edulis</i> A. et C.	
Riv.	295
<i>P. reticulata</i> C. Koch	396
<i>Picea excelsa</i> Link.	12
<i>P. jezoensis</i> Carr.	13
<i>P.</i>	
var. <i>hondoensis</i> Rehd.	14
<i>Picrasma quassloides</i> Benn	164
<i>Pieris elliptica</i> Nakai	239
<i>P. japonica</i> D. Don	240
<i>Pirus australis</i> Michx.	15
<i>P. densiflora</i> Sieb. et Zucc.	16
<i>P. pentaphylla</i> Mayr.	
var. <i>Himekomatsu</i> Makino	17
<i>P. Thunbergii</i> Parl.	18
<i>Pittosporum Tobira</i> Ait.	104
<i>Platanus orientalis</i> L.	107
<i>P. occidentalis</i> L.	108
<i>Pleioblastus Chino</i> Makino	297
<i>Podocarpus chinensis</i> Wall	5
<i>P. macrophylla</i> D. Don	6
<i>Poncirus trifoliata</i> Rafin.	161
<i>Populus Maximowczii</i> Henry	39

P.	<i>nigra</i> Linn.	
	var. <i>italica</i> Moench	40
	<i>Pourthiaea villosa</i> (Thunb.) Dence	116
P.		
	var. <i>laevis</i> (Thunb.) Stapf.	117
	<i>Prunus Buergeriana</i> Miq.	118
P.	<i>donarium</i> Sieb.	119
P.		
	var. <i>spontanea</i> Makino	120
P.	<i>Grayana</i> Maxim.	121
P.	<i>incisa</i> Thunb.	122
P.	<i>Itosakura</i> Sieb.	123
P.	<i>japonica</i> Thunb.	124
P.	<i>Mume</i> Sieb. et Zucc.	125
P.		
	var. <i>purpurea</i> Makino	126
P.	<i>Persica</i> Batsch.	127
P.	<i>subhirtella</i> Miq.	128
P.	<i>tomentosa</i> Thunb.	129
P.	<i>Yedoensis</i> Matsum.	130
	<i>Pseudosasa purpurascens</i> Makino	298
	<i>Pterocarya rholia</i> Sieb. et Zucc.	49
	<i>Pueraria hisuta</i> Matsum.	154
	<i>Punica Granatum</i> L.	225
	<i>Pyracantha angustifolia</i> Schneid	131
	<i>Pyrus Simonii</i> Carr.	132

Q

	<i>Quercus acutissima</i> Carruth.	60
Q.	<i>aliena</i> Blume	
	var. <i>pellucida</i> Blume	61
Q.	<i>crispula</i> Blume	62
Q.	<i>dentata</i> Thunb.	63
Q.	<i>glauca</i> Thunb.	64
Q.	<i>myrsinaefolia</i> Blume	65

Q.	<i>phillyraeoides</i> A. Gray.	66
Q.	<i>rerrata</i> Thunb.	67
Q.	<i>stenophylla</i> Makino	68
Q.	<i>variabilis</i> Blume	69

R

	<i>Rhaphinolepis umbellata</i> Makino	
	var. <i>Martensii</i> Makino	133
	<i>Rhododendron</i>	241
R.	<i>obtusum</i> Planch.	
	var. <i>Kaempferi</i> Wils.	242
R.	<i>dilatatum</i> Miq.	243
R.	<i>lateritium</i> Planch.	244
R.	<i>obtusum</i> Planch.	245
R.	<i>pulchrum</i> Seet.	246
R.	<i>quinquefolium</i> Biss et	
	Moore	247
	<i>Rhus javanica</i> L.	173
R.	<i>succedance</i> L.	174
R.	<i>sylvestris</i> Sieb. et Zucc.	175
R.	<i>trichocarpa</i> Miq.	176
R.	<i>verniciflua</i> Stokes.	177
	<i>Robinia pseudo-Acacia</i> L.	155
	<i>Rosa hibride</i> Hort.	134
R.	<i>multiflora</i> Thunb.	135
	<i>Rubus hirsutus</i> Thunb.	136
R.	<i>morifolius</i> Sieb.	137
R.	<i>palmatum</i> Thunb.	
	forma <i>coptophyllus</i> Makino	138
	<i>Ruscus aculeatus</i> L.	303

S

	<i>Salix babylonica</i> L.	41
S.	<i>glandulosa</i> Seemen	42
S.	<i>integra</i> Thunb.	43

S. Kinuyanagi Kimura	44	Torreya nucifera Sieb. et Zucc.	4
S. Malsudana Koidz.		Trachycarpus excelsa Wendl.	301
var. tortuos Vilmorin	45	T.	
S. triandra L.		var. Fortunei Makino	302
var. discolor Anders	46	Trochodendron aralioides Sieb. et	88
Sambucus Sieboldiana Blume	285	Zucc.	
Sapinodus Mukurossi Gaertn.	199		
Sasa albo-marginata Makino et			
Shibata	299		
Serissa japonica Thunb.	279	V	
Shibataea Kumasasa Makino	300	Vaccinium ovalifolium Smith	248
Shiia Sieboldii Makino	70	V. Smallii A. Gray.	
Smilax china L.	304	var. glabrum Koidz.	249
Sophora japonica L.	156	Viburnum dilatatum Thunb.	286
Sorbus commixta Hedlund	139	V. erosum Thunberg	287
Spiraea cantoniensis Lour.	140	V. lomentosum Thunb.	288
S. japonica L. fil.	141	V. odoratissimum Ker.	289
S. Thunbergii Sieb.	142	V. phlebotrichum Sieb. et Zucc.	290
Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.	219	V. tomentosum Thunb.	
Stephanandra incisa (Thunb.) Zabel.	143	var. plicatum Maxim.	291
Styrax japonica Sieb. et Zucc.	256	Vitis Coignetiae Pulliat.	204
Symplocos argutidens Nakai	254	V. Thunbergii Sieb. et Zucc.	205
S. paniculata Miq.	255		
Syringa vulgaris L.	267	W	
		Weigela coraeensis Thunb.	292
T		W. hortensis C. A. Mey.	293
Tamarix chinensis Lour.	217	W.	
Taxus cuspidata Sieb. et Zucc.	2	forma spontanea Makino	294
T.			
var. umbraculifera Makino	3	X	
Ternstroemia japonica Thunb.	214	Xanthoxylum piperitum DC.	162
Thea sinensis L.	215		
Thuja occidentalis Linn.	35	Y	
T. standishii Carr.	36	Yucca recurvifolia Salisb.	305
Thujopsis dolabrta Sieb. et Zucc.	37		
		Z	
		Zelkova serrata Makino	73

Ⅲ 野生する樹木、竹類

野生する植物の生育地

上水岸、段丘崖および多摩川岸の三つの流れがあり、地形的特徴をそのままあらわした形で植物帯を形成していること、これらの生育地は場所によって二つまたは三つが合体すること、そしてその地形的な変化は樹林相の上にも反映していることについて既に述べた。それに応じて調査区をA地区、B地区…と分け、またこの流れから独立して樹林を形成している地区をH、S、Gと分けた（Ⅱ調査計画、調査区の区分設定の項参照）が、更にA地区を4、B地区、C地区をそれぞれ3、D地区を8、E地区を5に小区分した。D地区には更に熊野橋、清岩院橋附近から神明神社方向に分枝した小段丘があり、これをD-1aとし、永田橋方向への分枝をD-1bとして合計28に小区分した。

個体数量について

野生する植物量を個体数から瞭めると、樹木類19,714本、竹類2,714本で計22,448本となっている。第5表によれば、樹木量の多い地区は宮本橋以北（A地区）と段丘崖（D地区）で、両地区とも、数量的にそれぞれ全体の30%以上を占めており、これを合せると67%にも達する。竹類の場合、真福寺周辺（S地区）も巨視的に段丘の流れに添うていると見做して計算すると段丘崖およびその附近に90%が生育していることになる。

第5表の1 多摩川沿域に野生する樹木・竹類 I

地 区	樹 木 類											竹 類		
	個 体 数				種 類 数							個 体 数		種 類 数
	総本数	本 %	常緑樹	本 %	落葉樹	本 %	落葉	常緑	総種数	常緑	落葉	種	種	種
A	6,823	34.6	341	7.0	6,482	43.7	19.01	84	39.6	18	66	34*	1.3	3
B	2,211	11.2	1,037	21.2	1,174	7.9	1.13	106	50.0	40	66	12	0.4	2
C	365	1.9	59	1.2	306	2.1	5.19	41	19.3	11	30	*	-	1
D	6,380	32.4	2,540	51.9	3,840	25.9	1.51	143	67.5	32	111	2,061*	75.9	6
E [⊙]	1,427	7.2	490	10.0	937	6.3	1.91	69	34.0	22	47	35*	1.3	3
H	1,265	6.4	32	0.7	1,233	8.3	38.53	34	16.0	3	31	58*	2.1	3
S	592	3.0	392	8.0	200	1.3	0.51	37	17.5	14	23	514*	18.9	3
G	651	3.1	-	-	651	4.4	-	38	17.9	-	38	-	-	1
計	19,714	100	4,891	100	14,823	100	3.03	212	100	61	151	2,714	100	6

注 ⊙—E地区の数量にはE-2区中の柳山公園の部分も含む。

*—ササ類は数量を数えられないため、数値として表現できない部分のあることを示す。

第5表の2 多摩川沿域に野生する樹林・竹類II

地 区	樹 木 類											竹 類		
	個 体 数				種 類 数							個 体 数		種 類 数
	総本数 本	%	常緑樹 本	%	落葉樹 本	落葉 %	常緑 %	総種数 種	常緑 %	落葉 種	種	本	%	種
A-1	1,522	7.7	56	1.1	1,466	9.9	26.18	47	22.7	6	41	※	—	種1
2	4,063	20.6	201	4.1	3,862	26.1	19.21	70	33.0	18	52	※	—	1
3	966	4.9	63	1.3	903	6.1	14.33	56	26.5	10	46	—	—	—
4	272	1.4	21	0.4	251	1.7	11.95	32	14.6	5	27	34	1.3	2
S.T	6,823		341		6,482			84		18	66	34※		3
B-1	151	0.8	48	1.0	103	0.7	2.15	26	12.3	12	14	10	0.4	1
2	1,554	7.9	906	18.5	648	4.4	0.72	89	42.0	39	50	2	0.1	1
3	506	2.6	83	1.7	423	2.9	5.10	40	18.9	15	25	—	—	—
S.T	2,211		1,037		1,174			106		40	66	12		2
C-1	115	0.6	5	0.1	110	0.7	22.00	15	7.1	2	13	—	—	—
2	177	0.9	43	0.9	134	0.9	3.12	26	12.3	8	18	※	—	1
3	73	0.4	11	0.2	62	0.4	5.64	17	8.0	4	13	※	—	1
S.T	315		59		306			41		11	30	※		1
D-1	1,245	6.3	351	7.2	894	6.0	2.55	83	39.2	19	64	357※	13.2	2
2	1,074	5.5	680	13.9	394	2.7	0.58	65	30.7	18	47	55※	2.0	4
3	141	0.7	28	0.6	113	0.8	4.04	20	9.4	5	15	2	0.1	1
4	314	1.6	119	2.4	195	1.3	1.64	32	11.1	10	22	—	—	—
5	625	3.2	245	5.0	380	2.6	1.55	46	21.7	14	32	156※	5.7	4
6	1,408	7.1	542	11.1	866	5.8	1.60	58	27.4	20	38	490※	18.1	5
7	721	3.7	305	6.2	416	2.8	1.36	49	23.1	12	37	941※	34.7	3
8	328	1.7	11	0.2	317	2.1	28.82	38	17.9	4	34	—	—	—
1a	306	1.6	161	3.3	145	1.0	0.90	34	16.0	9	25	60※	2.2	2
1b	218	1.1	98	2.0	120	0.8	1.22	53	25.0	23	30	—	—	—
S.T	6,380		2,540		3,840			143		32	111	2,061※		6
E-1	352	1.8	134	2.7	218	1.5	1.63	35	16.5	14	21	35※	1.3	3
2	666	3.4	324	6.6	342	2.3	1.06	25	11.8	11	14	※	—	1
3	38	0.2	—	—	38	0.3	—	1	0.5	—	1	—	—	—
4	98	0.5	32	0.7	66	0.4	2.06	21	9.9	2	19	—	—	—
5	273	1.4	—	—	273	1.8	—	12	5.7	—	12	—	—	—
S.T	1,427		490		937			69		22	47	35※	1.3	3
H	1,265	6.4	32	0.7	1,233	8.3	38.53	34	16.0	3	31	58※	2.1	3
R	592	3.0	392	8.0	200	1.3	0.51	37	17.5	14	23	514※	18.9	3
G	651	3.1	—	—	651	4.4	—	38	17.9	—	38	※	—	1
計	19,714	100	4,891	100	14,823	100	3.03	212	100	61	151	2,714	100	6

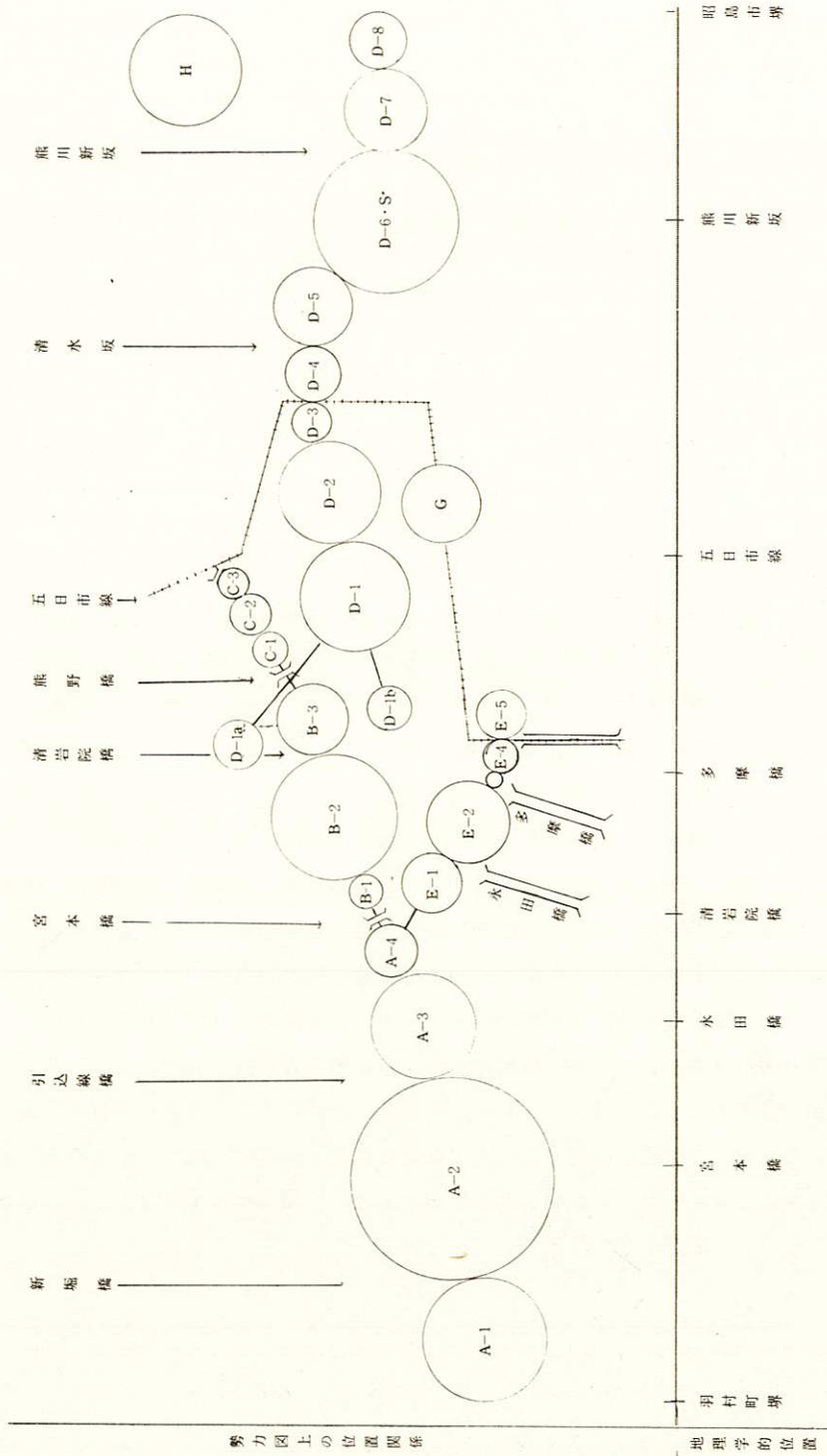
調査各地区の樹木量の勢力関係がどうなっているかを第3図として作成した。実際の地理的な位置関係にゆがみが生れている。これは樹木量の相対的不均衡を示す指標で、プラスのゆがみ（地理的距離がより以上に拡大されている状態）とマイナスのゆがみ（プラスの場合の逆）によって樹林の量的勢力関係をあらわしている。

常落比から見ると、宮本橋以北（A地区）は19.0で同地区全体の95%が落葉樹によって占められ、落葉樹林を形成している。一方、段丘崖（D地区）の常落比は1.5で、常緑樹40%、落葉樹60%という構成になっており、常落混雑林の形をとっている。しかし、同じ地区でも場所によって樹林の性格にちがいがあり（第5表2参照）、野生地区中で最高の常落比を示しているのはA-1地区で、26.2と圧倒的に落葉樹が多く、最低の常落比0.7をあらわしているB-2区は常緑樹が落葉樹を圧している。全調査区について樹木量と常落比を図上にあらわしたのが第4図である。円の大きさを樹木量を、円の分割で常落比を見れば、生育場所によって量的にも構成的にもちがった様相を示すことがよくわかる。

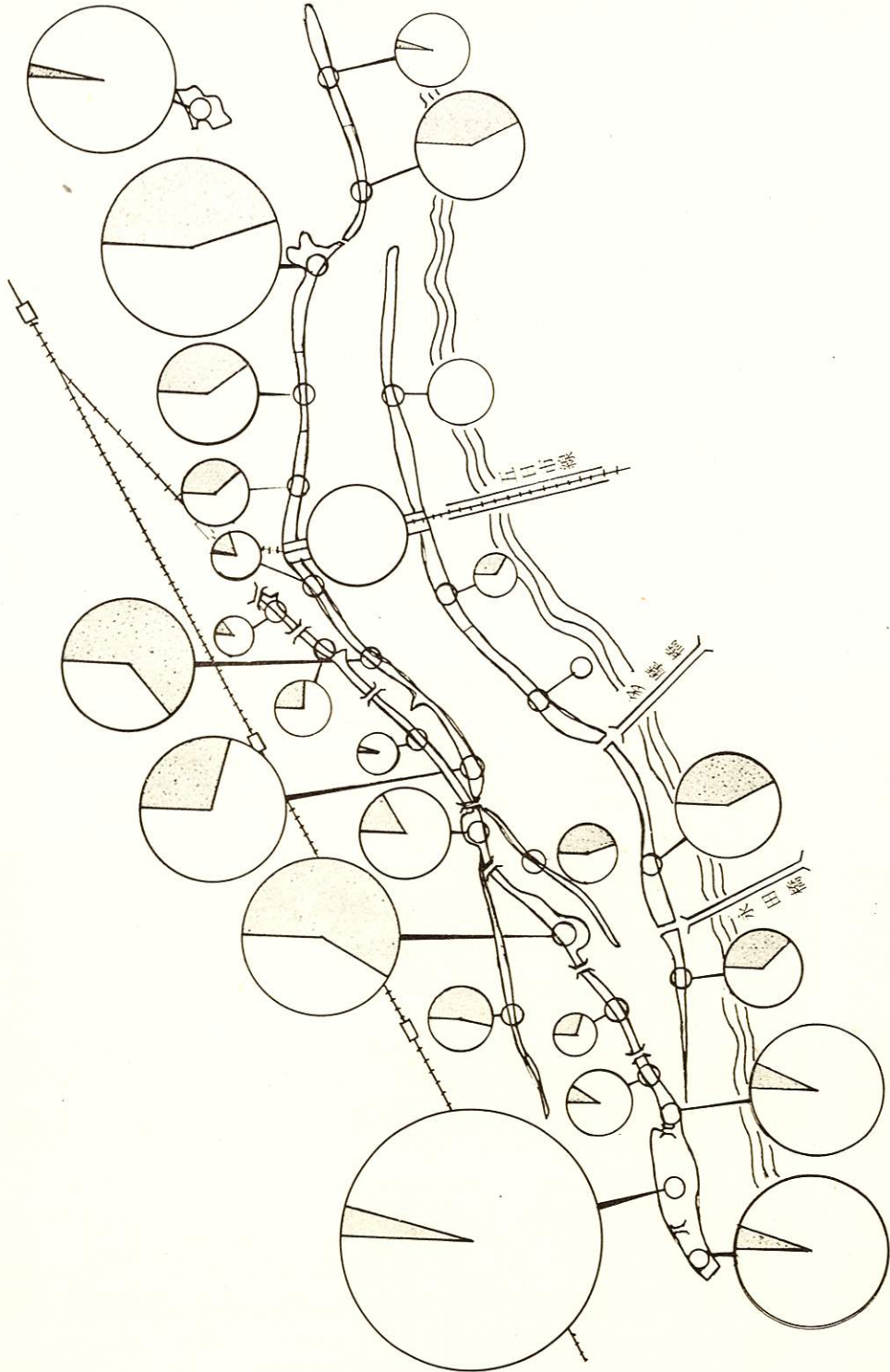
樹木量の上で代表的なA地区とD地区の常落構成のちがいは、主として地勢に由来すると考えられる。A地区がやや平坦な地形上に樹林を形成し、多摩川によって尽きる武蔵野台地の最西南端の一隅に位し、武蔵野平地林の流れを汲むものと理解することが可能であり、D地区は段丘崖の西向き傾斜面にへばりついた形で樹林が形成され、しかも段丘崖の断面には各所に湧水を見するという、湿性的で陰樹性の植物に向く生育環境にあり、それが樹林構成に大きく影響しているものと推測できる。

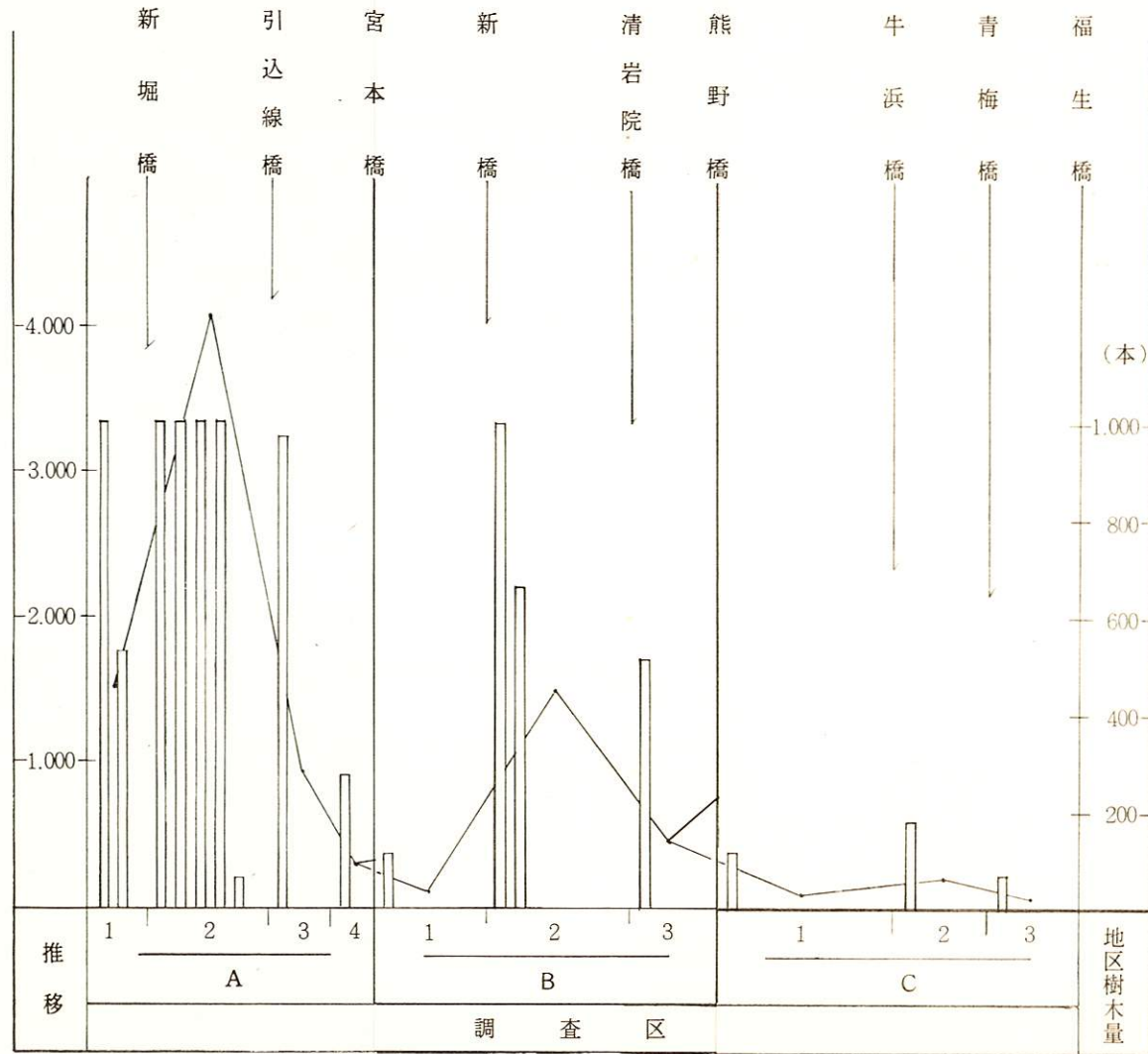
多摩川沿域における植物帯上の樹木量の分布の状態を一つの流れとしてとらえて、その変化の推移を地理的に組合せると第5図のようになる。この植物体の流れを追うと上水岸帯は（A地区+B地区+C地区）からなり、段丘帯は（A地区+B地区+D地区）から、多摩川沿岸帯は（A地区+E地区）の組合せから成り立っており、野生する樹林の中心的な流れが段丘帯で形成されていることが明らかに認められる。上水、多摩川の水流に沿う植物帯は、その独自の特徴、地勢が活かされず、樹林の形態を示すのはほんの僅かな部分に過ぎない。植物帯上の樹木量の流れを追うとそこには波状の変化のあることがこの図からよくわかるが、波形の山の部分に当るA地区、D地区の1, 2, 5, 6および7の5ヶ所が主要地であり、B地区の2も植栽的要素が強いとはいえ貴重な地区といえる。波状分布の谷を形成する部分、この地区は十分に樹木の保全に留意し、更に育成をはかることが必要であり、少なくとも植物帯の分断を促進しないことが肝要である。竹類の生育地はほとんど熊川地区に偏在し、D地区の1, 5, 6, 7およびS区が中心地区である。

第3図 樹木類の勢力地図



第4図 地区別の樹木量と常落比

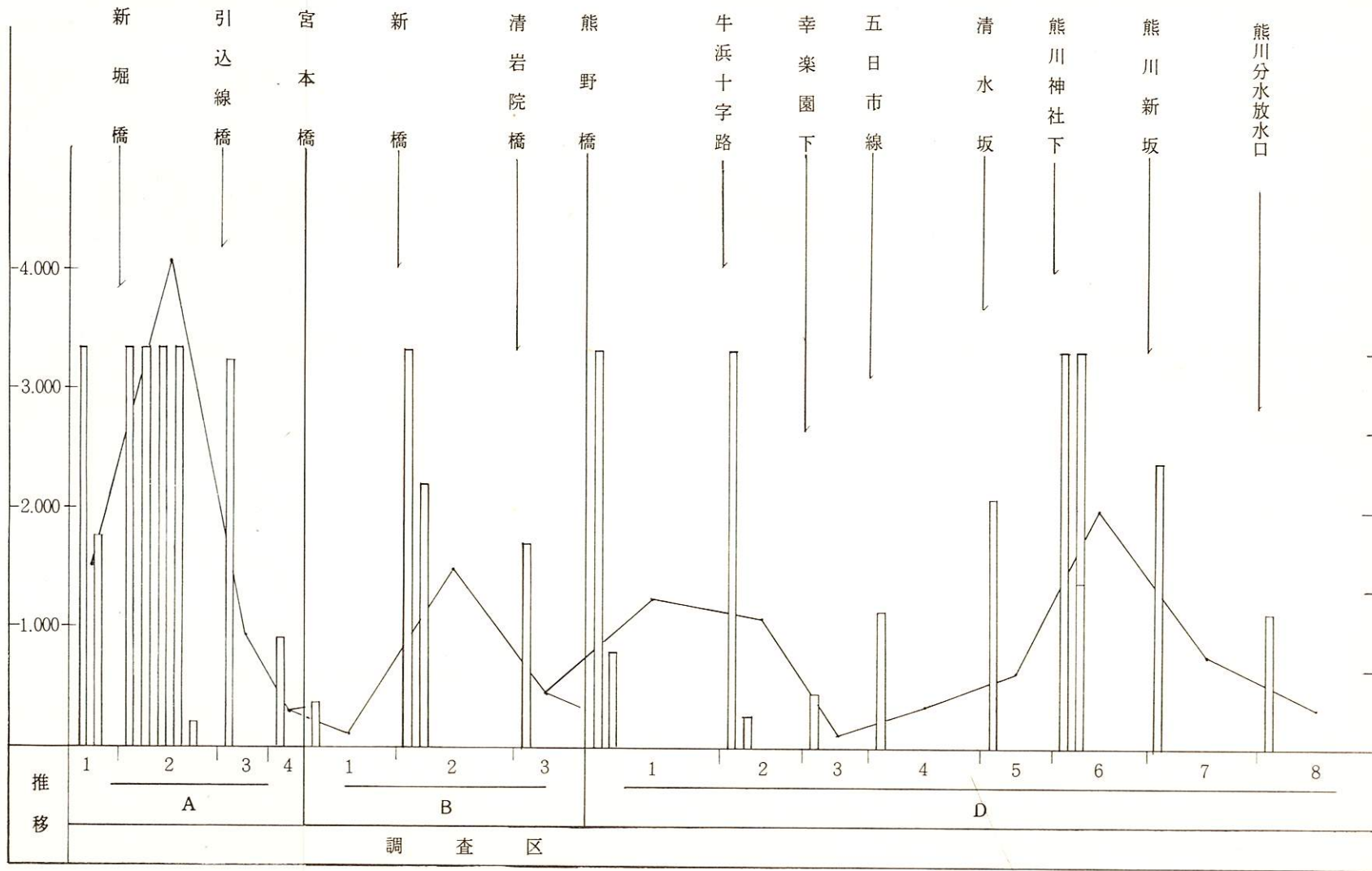


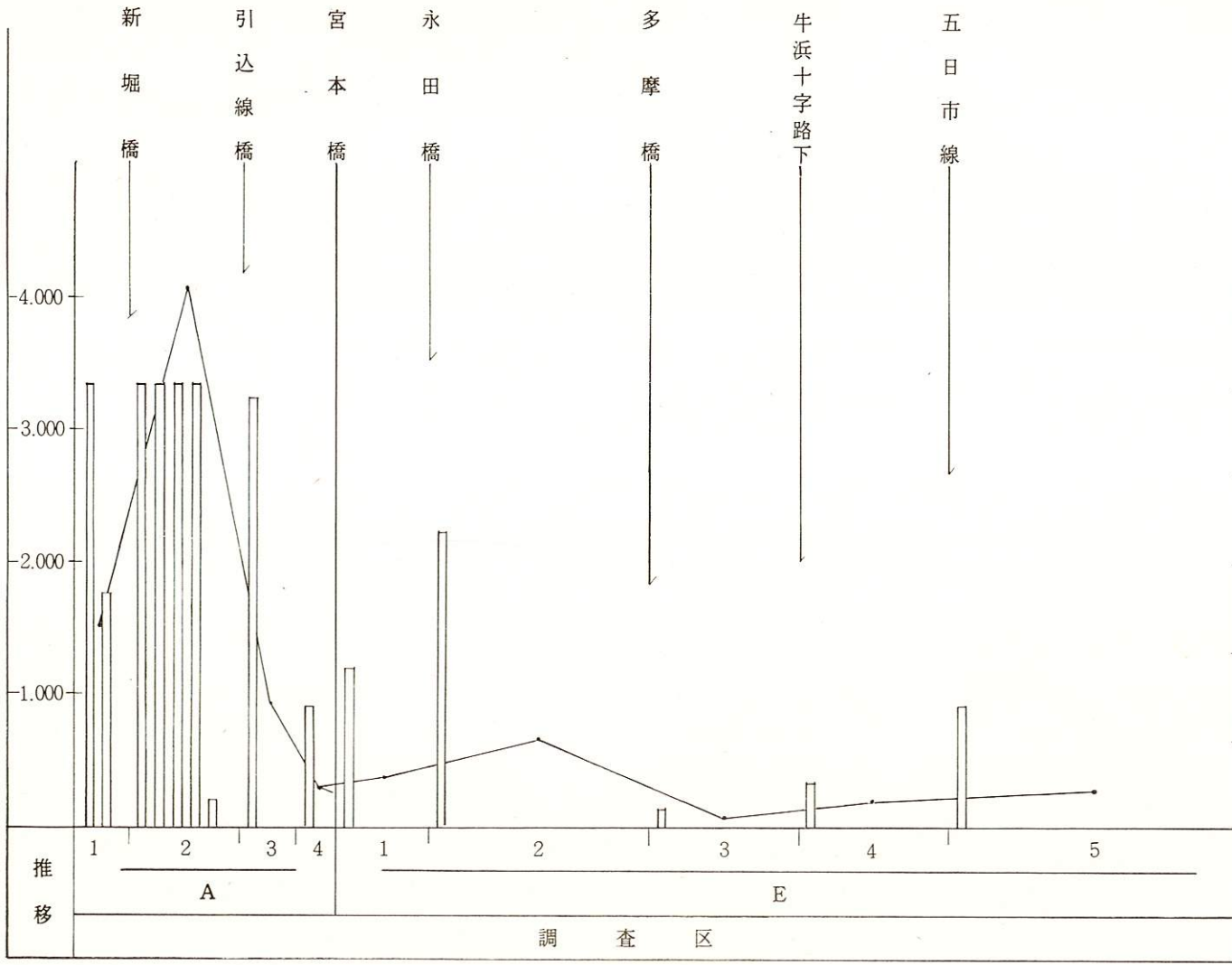


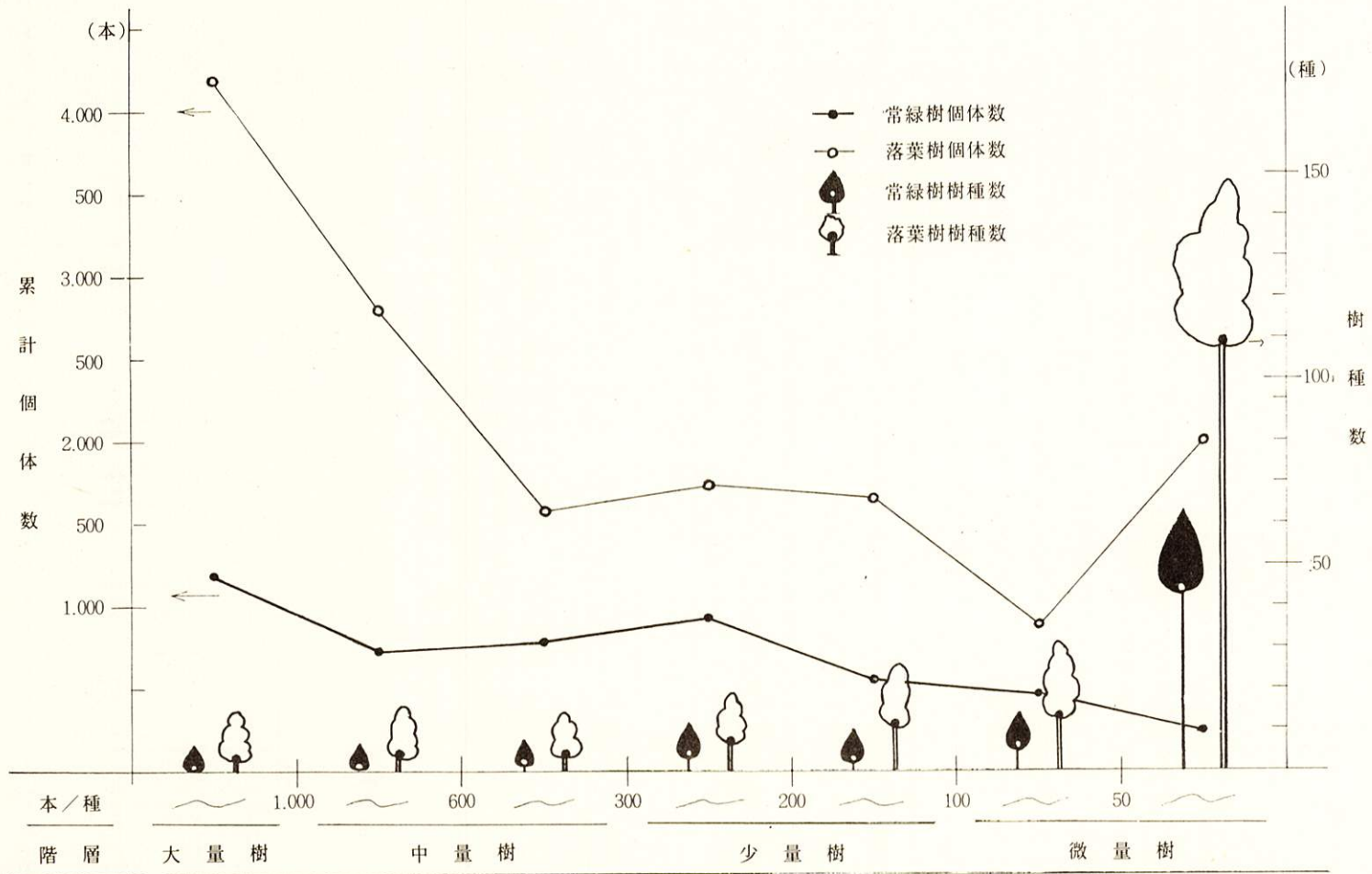
第5図

野生樹木の個体数の
地理的分布推移

- 多摩川上水沿域植物帯…… A、B、C
- 段丘(崖)植物帯…………… A、B、D
- 多摩川沿岸植物帯…………… A、E







第7図 樹量階層別の個体数と樹種数

野生する樹種がどのような地区に生育しているかは、その樹種の性質と地区の生育環境および土壌条件で異なってくる。個体数の上位50種を選び、その生育場所を第6表として掲げた（上位50種は樹木量で84.4%を占める）。全調査区28区分のうちの何ヶ所の地区で生育していたかを見ると、ケヤキ、クサギの27ヶ所を最高として、20ヶ所以上の地区に生育していた樹種はコナラ、エゴノキ、ムラサキシキブ、エノキ、ヒノキの7種類、半数以上の地区に生育しているのはアオキをはじめとして16種類である。生育10ヶ所未満に留まったのは12種類、そのうちオオムラサキ、サツキの1ヶ所、コバノガマズミの2ヶ所が特に少ない。

そこで、各区の個体数上位5種を挙げると第7表のとおりになる。A地区ではコナラが中心的な存在で、B地区ではアオキが代表的であり、この地区ではほとんどB-2区の樹種が代表樹の位置にある。C地区のクサギは地区最高の個体数で代表樹になっているが、比較的小木で数量ほどには目立たない存在である。D地区の上位5種の間には大きい優劣はなく、比較的常緑樹が多いが、ケヤキは各区に分散して生育し、D地区全般の上位木として目立つ存在になっている。E地区の代表になっている5種のうちケヤキを除けば、E地区の一部に柳山公園、花園公園が組み込まれている影響があらわれている。野生樹木の観点から見ればE-1区に代表されているケヤキ、アラカシが中心樹種と考えることが適当である。他方では、荒地性の高い樹種（クサギ、ヌルデ、ニワトコ）が見受けられる。H区は平林地でエゴノキ、コナラの2種で66%占め、S区ではアオキとチャで57%、G区

第6表 野生する主要樹種の生育地

樹種	個体数	野生地数	主要野生地
コナラ	1,915	21	A-2, H, A-1, A-2
エゴノキ	1,210	22	H, A-2, D-1, D-6
アオキ	1,180	15	B-2, S, D-2, D-6
ケヤキ	1,063	27	A-2, E-1, D-7, D-1
クサギ	740	27	C-1, A-2, E-5, D-6
イヌシデ	732	10	A-2, A-1, A-3
チャ	720	15	D-2, D-1a, D-1, S
ムラサキシキブ	701	21	A-2, A-1
エノキ	633	26	A-2, D-7, D-8, D-1
ガマズミ	420	15	A-2, G, A-3
カマツカ	408	15	A-2, H, A-3, A-1
アラカシ	402	17	E-1, D-2, D-6, D-5
イボタ	396	12	A-2, A-1, D-8, D-7
シロダモ	394	13	D-6, D-7, D-1
クスギ	345	17	H, A-2, D-8, E-2
ヌルデ	279	14	G, D-1, E-5, D-8,
ヒノキ	264	20	B-2, D-4, B-1, D-6
マルバウツギ	255	9	D-1, D-5, A-1, D-2
スギ	253	18	B-2, D-1, D-1b, A-3
クリ	249	17	D-6, H, A-3, A-1
ムクノキ	249	10	D-2, D-4, D-5, D-7
ソメイヨシノ	239	14	E-1, A-2
ヤブデマリ	237	14	A-1, H, B-2
タラノキ	225	7	G, D-6, E-5
イヌツゲ	212	11	D-1, D-6
ヒサカキ	202	11	B-2, D-5, D-6, D-2
シュロ	195	11	D-5, S, D-2, B-2
ニワトコ	194	13	D-1, D-8, S, D-6
コバノガマズミ	190	2	A-2
ヤブツバキ	181	11	D-2, D-5, D-7, D-6
シラカシ	178	15	D-6, D-7, D-1,
フジ	166	15	D-6, B-2
ツリバナ	165	15	A-2, A-1, D-7, D-1
クマシデ	161	9	A-2, D-1, D-6
ウツギ	156	13	A-2, A-1, A-3, B-2
タカオモミジ	142	13	D-6, D-5,
サワフタギ	127	9	A-2, A-1, A-3
ノイバラ	124	8	A-2, A-1,
サンショウ	119	15	A-2, S, D-6, D-5
ゴンズイ	102	10	A-1, A-2, D-1, H
アオハダ	99	7	A-2, A-3,
ヤマコウバシ	96	6	A-1, A-2,
キハギ	95	6	A-2, A-1,
オオムラサキ	90	1	E-2,
ウワミズザクラ	87	14	A-1, D-6, D-1, C-2
オニグルミ	82	13	E-5, D-6, D-5
マサキ	70	7	E-2, E-4,
サツキ	69	1	E-2,
ネズミモチ	67	10	B-2, D-2,

(調査区数28ヶ所)

註 個体数上位50種を表示(但し、竹類除外)
 全個体数19,714本のうち16,878本(内常緑樹4,585本)
 全種数212種のうち50種(内常緑樹16種)

では圧倒的にタラノキが多い。このように特定樹種の占有率の高い地区とそうでない地区とがある。全調査区28ヶ所のうち、上位5種で個体占有率50%をこえる地区は16区、そのうち1種だけで占有率50%以上の地区2ヶ所（C-1, E-3）、同様にして2種の地区5ヶ所（D-1a・1b, E-2・4, H）また3種で50%を超える地区は4ヶ所（C-3, E-5, S, H）である。4種、5種と多くの樹種で50%以上の占有率を維持し、主要樹の特定化が弱く、安定性の高い区はD地区に多い。

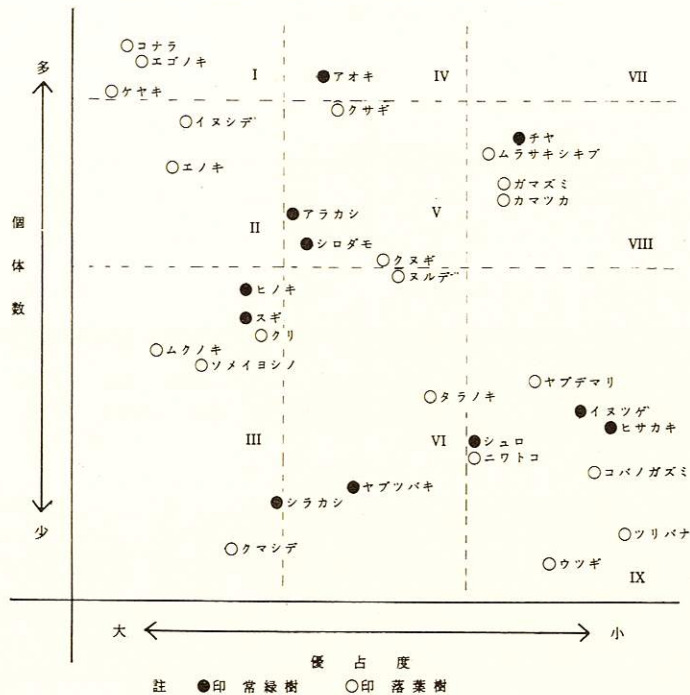
第7表 地区別の主要野生樹種

調査区	ベスト5樹種				
	I	II	III	IV	V
A地区	コナラ	ムラサキシキブ	エゴノキ	カマツカ	ケヤキ
内訳					
1	ムラサキシキブ	コナラ	イヌシデ	ヤブデマリ	ケヤキ
2	コナラ	イヌシデ	ムラサキシキブ	カマツカ	ガマズミ
3	コナラ	イヌシデ	エゴノキ	ガマズミ	カマツカ
4	クサギ	コナラ	イヌシデ	ケヤキ	エゴノキ
B地区	アオキ	クサギ	イヌツゲ	ヒノキ	スギ
内訳					
1	キリ	ヒノキ	ケヤキ	クサギ	タカオモミジ
2	アオキ	イヌツゲ	ヒサカキ	スギ	ヒノキ
3	クサギ	エゴノキ	ケヤキ	クヌギ	ヒノキ
C地区	クサキ	エゴノキ	ケヤキ	ヒサカキ	クワ
内訳					
1	クサギ	クワ	ケヤキ	エゴノキ	ヒイラギモクセイ
2	エゴノキ	ヒサカキ	クサギ	ケヤキ	ウミズザクラ
3	ケヤキ	エゴノキ	クリ	コナラ	アオハダ
D地区	アオキ	チャ	シロダモ	ケヤキ	エノキ
内訳					
1	チャ	エゴノキ	マルバウツギ	ケヤキ	ヌルデ
2	アオキ	チャ	アラカシ	シロダモ	ヤブデマリ
3	ケヤキ	エノキ	クヌギ	アラカシ	ムクノキ
4	ケヤキ	ムクノキ	ヒノキ	アオキ	マルバウツギ
5	アオキ	シュロ	マルバウツギ	クサギ	アラカシ
6	アオキ	コナラ	シロダモ	エゴノキ	フジ
7	シロダモ	エノキ	ケヤキ	アオキ	シラカシ
8	エノキ	コナラ	クヌギ	ヌルデ	イボタノキ
1 a	チャ	ケヤキ	クサギ	ヒノキ	アラカシ
1 b	スギ	ケヤキ	カヤ	ヌルデ	シラカシ
E地区	マサキ	ソメイヨシノ	ケヤキ	クヌギ	アオキ
内訳					
1	ケヤキ	アラカシ	ムクノキ	エノキ	アオダモ
2	マサキ	クヌギ	アオキ	オオムラサキ	ソメイヨシノ
3	ソメイヨシノ				
4	マサキ	ソメイヨシノ	ヌルデ	ハクチョウゲ	クサギ
5	クサギ	ソメイヨシノ	オニグルミ	ヌルデ	ハリエンジュ
H (平地林)	エゴノキ	コナラ	クヌギ	カマツカ	ヤマザクラ
S (真福寺周辺)	アオキ	チャ	シュロ	ニワトコ	ケヤキ
G (五鉄線土手)	タラノキ	コナラ	ヌルデ	ガマズミ	クサボケ
全線区	コナラ	エゴノキ	アオキ	ケヤキ	クサギ

樹種の優劣関係は個体数だけで決めるわけにはいかない。個体数は少くないが、林相の上で大きい役割を担う樹種があり、その樹の個体数の多少と同時に特性をも加えて判断しなければならない。即ち、優占度という指標でとらえると次のようになる。優占度順に1. コナラ、2. ケヤキ、3. エゴノキ、4. ムクノキ、5. イヌシデ、6. エノキ、7. ソメイヨシノ、8. ウワミズザクラ、9. クマシデ、10. ヒノキ・スギ、11. シラカシ、13. アラカシ、14. イボタ、15. シロダモ、16. アオキ、17. クサギ、18. ヤブツバキ、19. タカオモミジ、20. クヌギ、21. ヌルデ、22. アオダモ、23. タラノキ、24. ノイバラ、25. ゴンズイ、26. シュロ・ニワトコ、27. ムラサキシキブ、28. カマツカ・ガマズミ、29. チャ、30. ヤブデマリ (以下略) となる。

この優占度と個体数との関係が樹種によってちがってくる。第8図はその関係をしめたもので、図中の波線による区分は優占度と個体数との関係をグループ分けしたものである。I～IIIは優占度の高い樹種で、そのうちコナラ、エゴノキ、ケヤキは主木の位置を占めており、続いてイヌシデ、エノキの優占度が高い。IIIのグループは個体数が少くないにもかかわらず優占性の高い7種がこれに属し、特にムクノキは注目してよい樹種の一つといえよう。IV～VIのグループは中堅的役割を果しており、これに属する8種のうち、アオキ、アラカシ、シロダモ、ヤブツバキの常緑樹4種が主体となっており、落葉樹ではクヌギを除いた他の3種は雑木性が高く、クヌギ、ヌルデ、タラノキなどで他にみられるべき樹種がない。VII～IXは灌木が中心となっているグループで、下木層を形成する樹種が多く、これらの中には小鳥の食餌植物になる樹木類が比較的によく含まれている。従って、この側面からの価値を評価すべきものと考えられる。

第8図 樹種の優占度と個体数量との関係



主要樹種の分布図

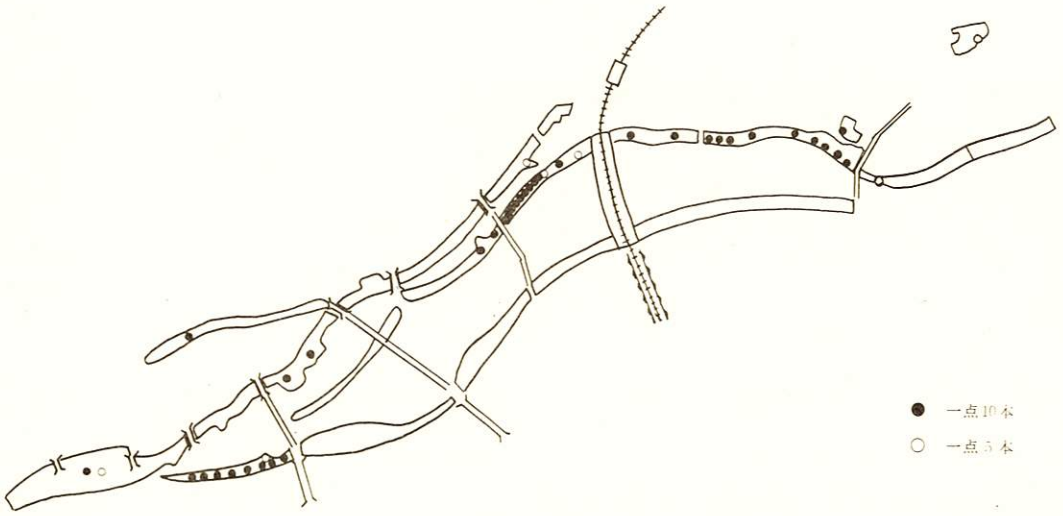
野生する樹種が生育する場所は、その樹種の性質、地勢、生育条件などによって様々な態様をしめすものである。従ってその分布型には、地域全体にこまなく分布するもの、ある特定の地域に片寄って分布するもの、集団的に点在して分布するものなどがある。市内の限られた区域内での分布は、特に生育地の地勢にとまなう日照・水湿などが樹種の特性とくに陰陽性、乾湿性と一致するとき、その場所に特定の林相が示されることが多い。

そこで主要樹種について第9図の分布図を作成した。第9-1図は常緑樹9種の分布状況を記録したものである。アラカシはホテル公園附近が特に多く生育しており、他に永田橋上岸の崖、第五小学校横の段丘崖にも集中している。シロダモも基本的にはアラカシの生育する地区と類似しているが、多摩川岸には殆んど生育していない。ヒノキ、スギの2種は人工的要因が加わった分布型をしめして、新橋と清岩院の間に集中的に見受けられる。ヤブツバキはややシロダモに近い分布型を呈している。アオキの生育中心地域は図上に明瞭な形で3ヶ所指摘できる。この分布の様態は、他の主要常緑樹の中心生育地を合わせたような形であらわされている。ただし、多摩川岸にある集団的生育部分は花園公園に植栽されているアオキを記入してしめたものである。イヌツゲ、ヒノキはほぼヒノキ、スギに近い分布型である。シュロは熊川神社下と清水坂の間の段崖、真福寺周辺に多く生育している。常緑樹9種のうちで、ヒノキ、スギ、シュロの3種を除き、他の6種は比較的類似の分布様相をあらわし、水湿性の高い地区に分布し生育をとげている。

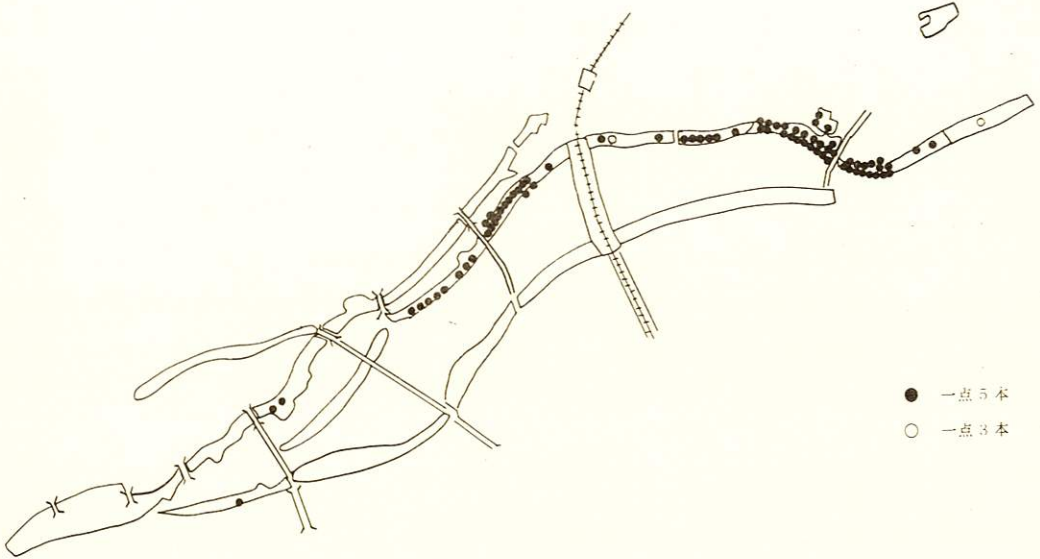
第9-2図は落葉樹13種の分布をしめたものである。コナラ、エゴノキは似た分布をしめしており、宮本橋上流の地域と多摩工業高校際の平地林とが中心的生育地である。宮本橋と羽村界の間の林地に集中して生育するものとしてイヌシデ、ムラサキシキブ、ガマズミ、カマツカおよびイボタの5種があり、それぞれ類似の分布をしめしている。ケヤキ、エノキ、クサギの3種は個体量にちがいがああるものの全域的に分布している点では共通している。ムクノキは平均的分布をしてはいるが段丘崖に限られ、その部分ではケヤキと重なって生育し、主要木の一部を担っている。ヌルデ、タラノキはそれぞれ独自の分布形態をとるが、特にタラノキは五日市線の北側斜面に集中しているのが特徴的である。これら落葉樹の分布を大きく分けて見ると、特定の地域に集中して生育するものの中にコナラ、エゴノキなどの高木とムラサキシキブ、ガマズミ、カマツカ、イボタなどの低木とが見られ、一方で主要木としての位置を占めているケヤキ、エノキのように全地域に、まなく分布して生育するものがあり、この二つが分布の代表的な型としてしめされた。

第9-3図は竹類の分布をあらわしたものである。モウソウは段丘崖の内出、南地区に集中して生育し、一部中福生に見られる。マダケは、殆んど真福寺周辺とそれに隣接する段丘崖上部に見受けられるだけである。尚、オカメザサ、クマザサは生育地のおおよその位置を示すにとどめた。モウソウの群生した熊川の内出、南地区の竹林は残り少くないものとして大切に維持されることが望まれよう。

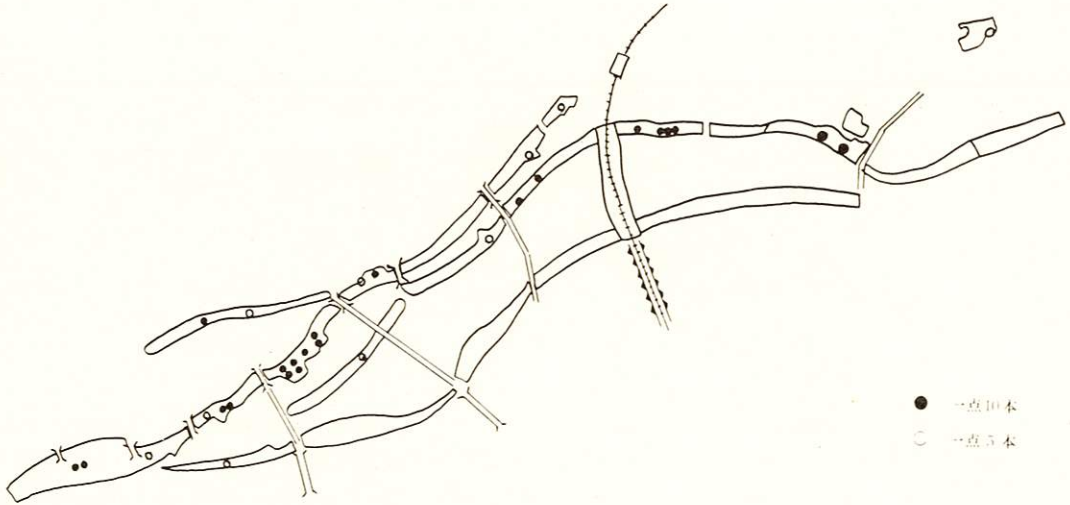
第9-1a ㊦
アラカシ *Quercus glauca*



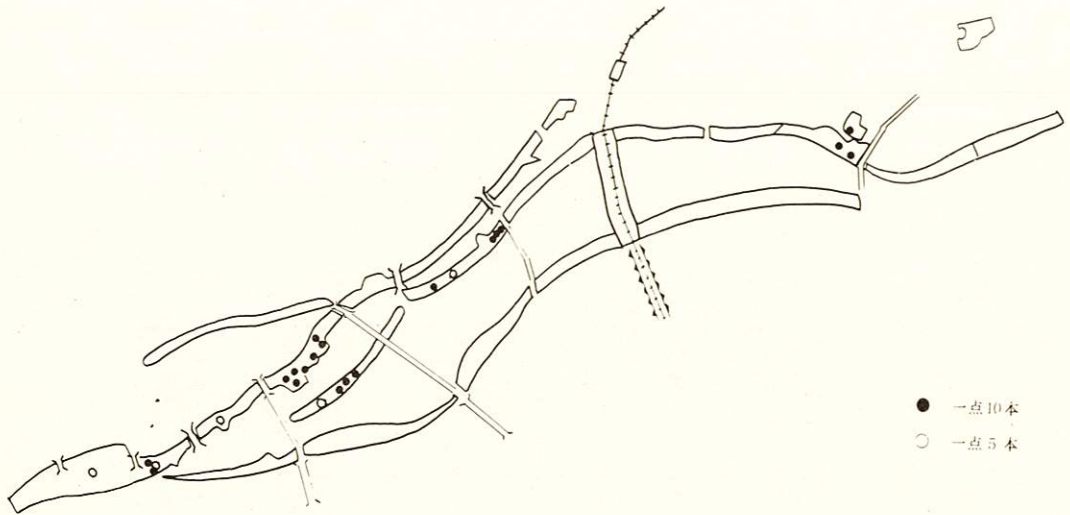
第9-1b ㊦
シロダモ *Litsea glauca*



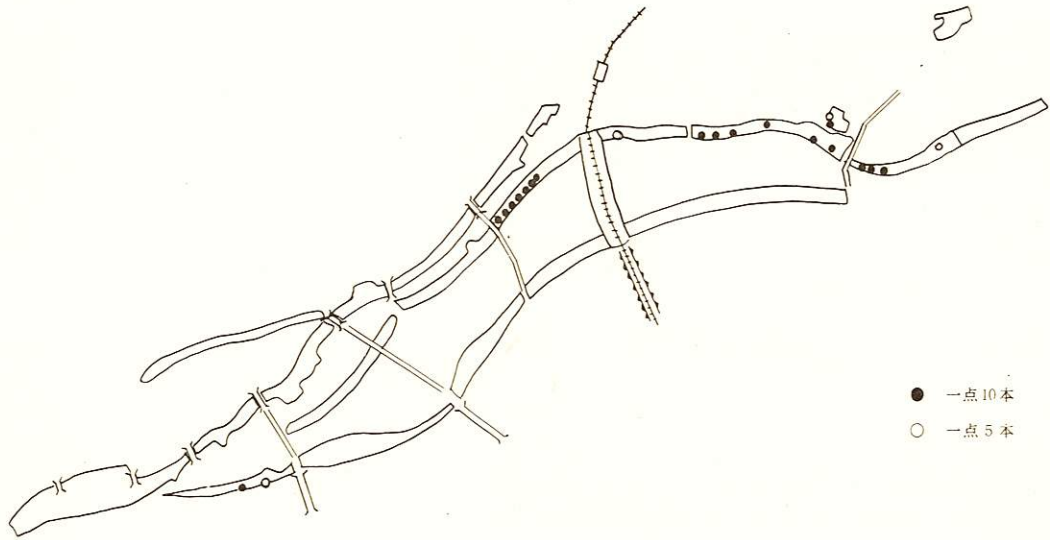
第9-1c ㊦
 ヒノキ *Chamaecyparis obtusa*



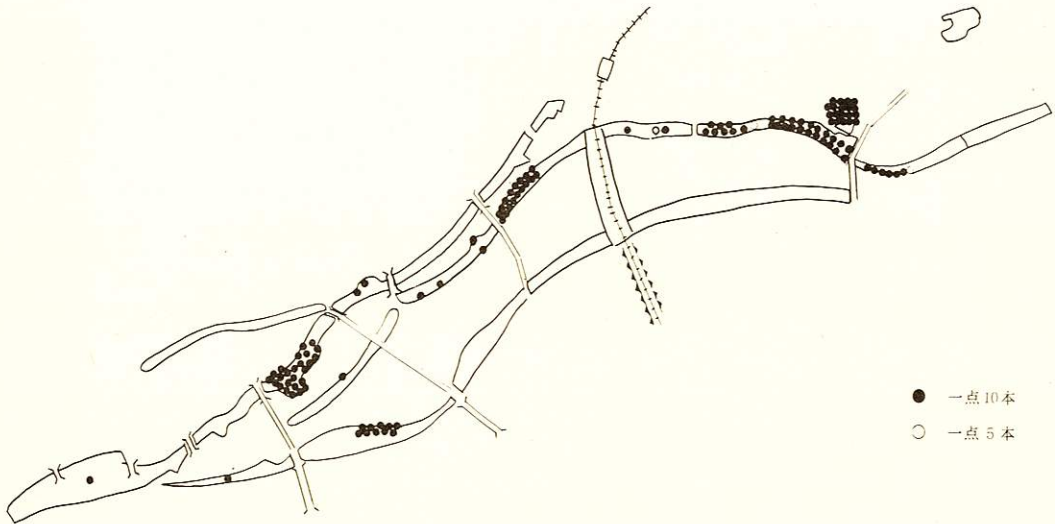
第9-1d ㊦
 スギ *Cryptomeria japonica*



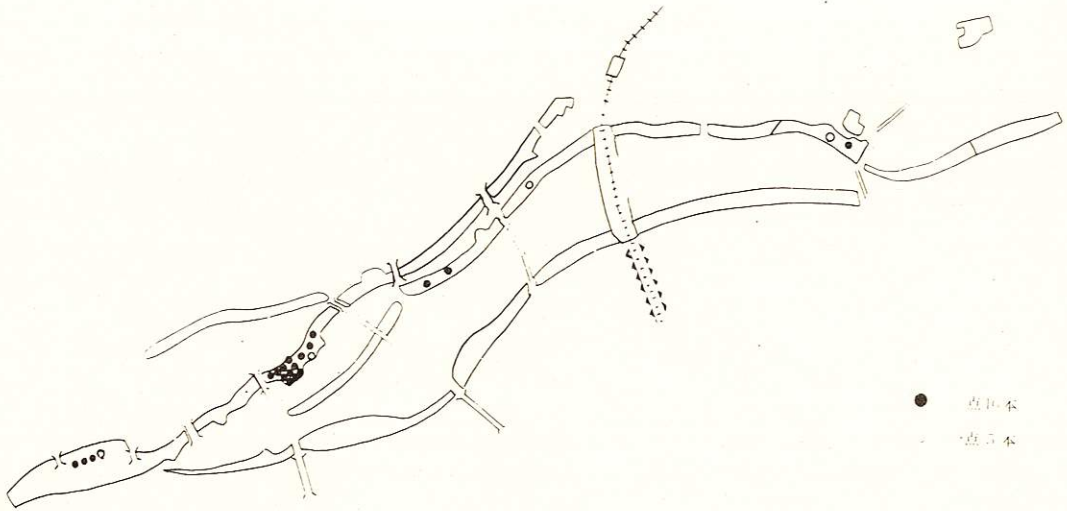
第9-1e 図
ヤブツバキ *Camellia japonica*



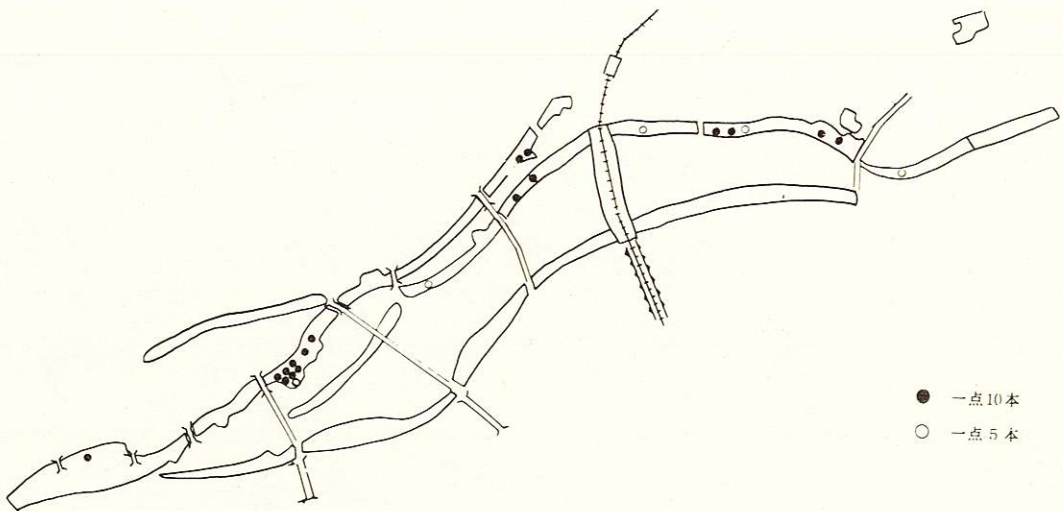
第9-1f 図
アオキ *Aucuba japonica*



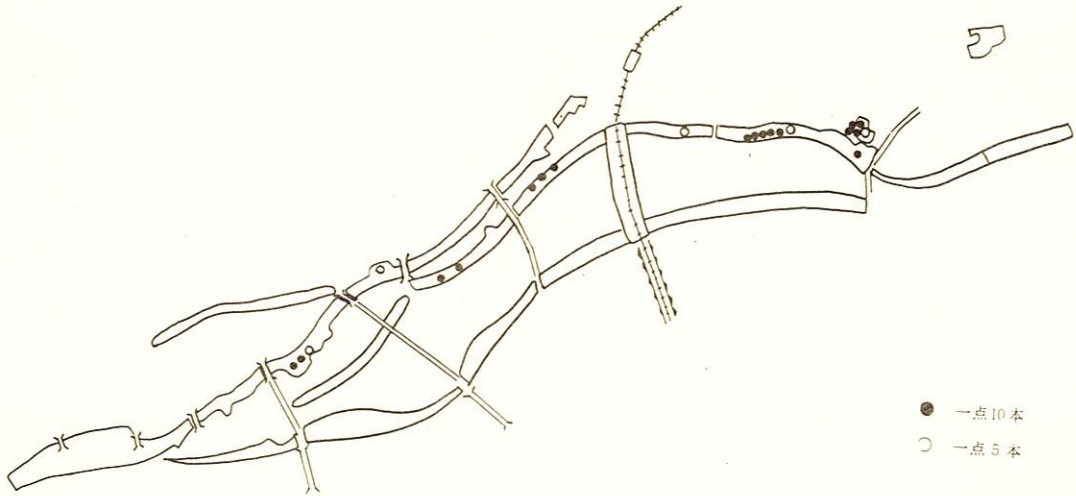
第9-1g 図
イヌツゲ *Ilex crenata*



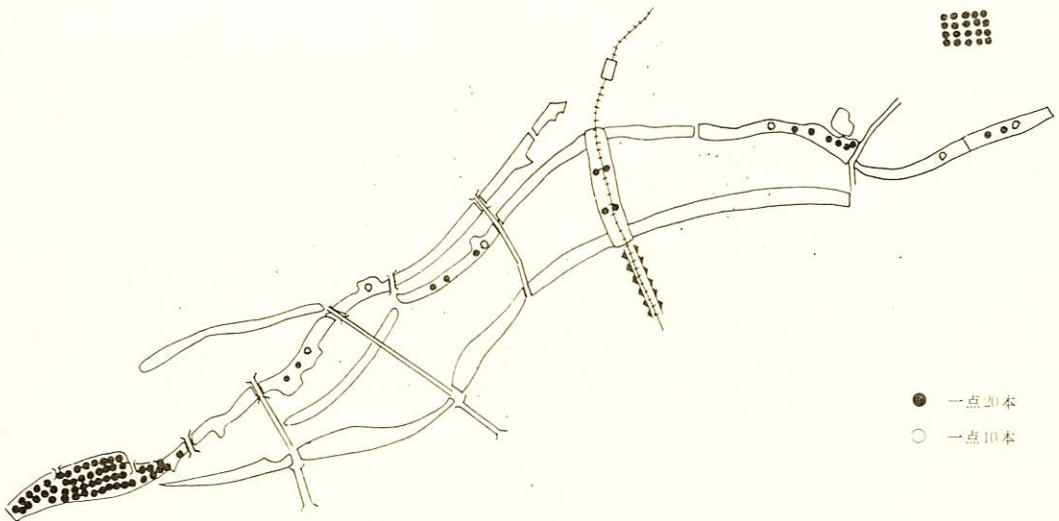
第9-1h 図
ヒサカキ *Eurya japonica*



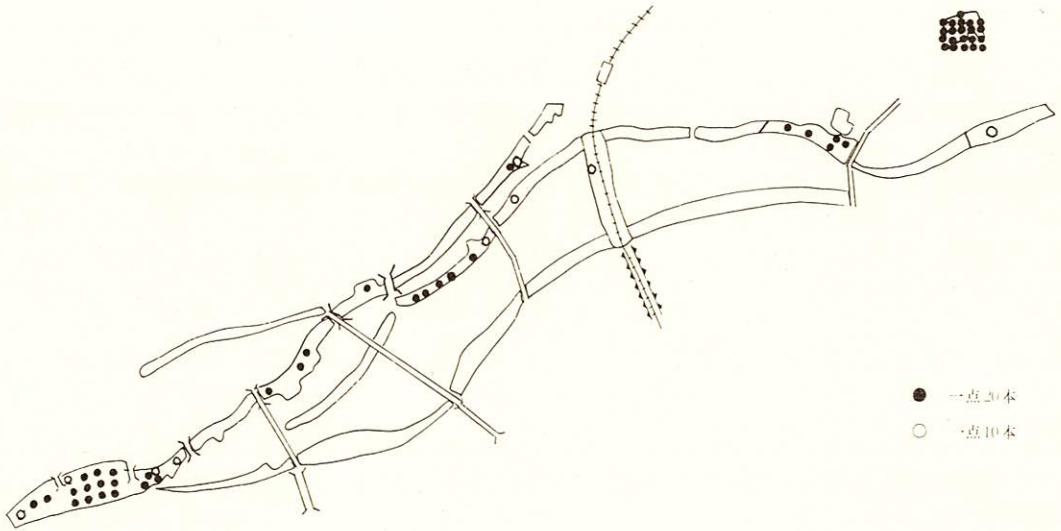
第9-1 i 図
 シュロ *Trachycarpus excelsa*



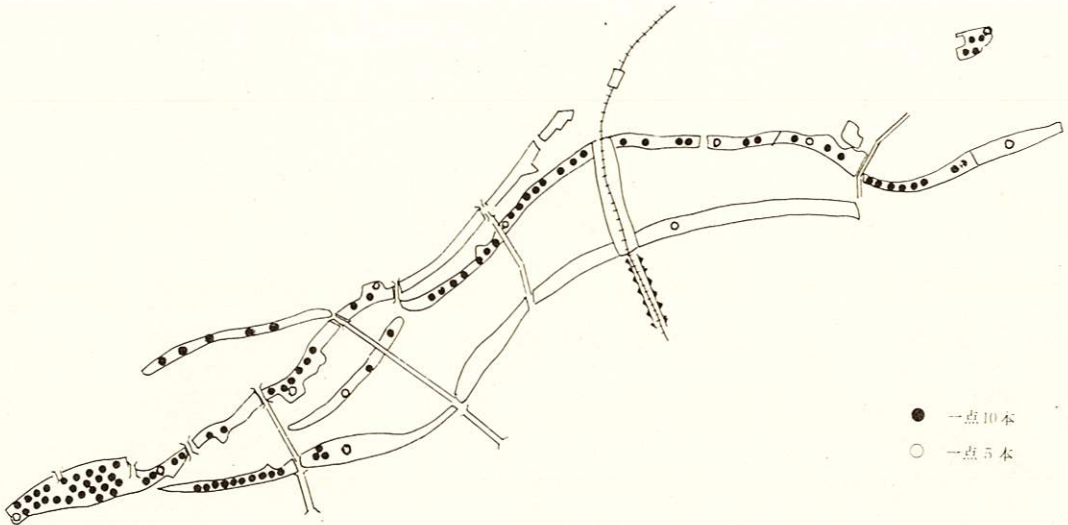
第9-2 a 図
 コナラ *Quercus serrata*



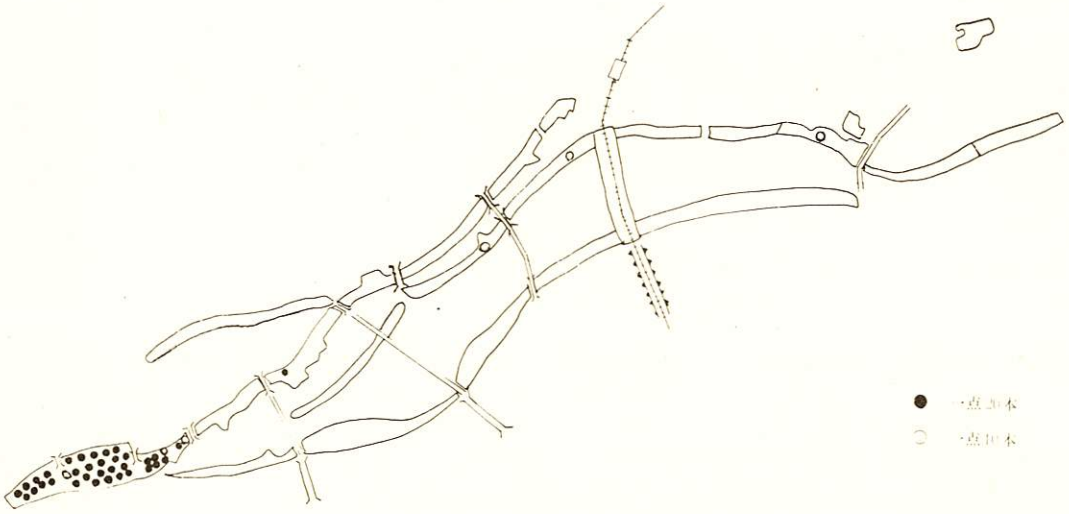
第9-2b 図
 エゴノキ *Styrax japonica*



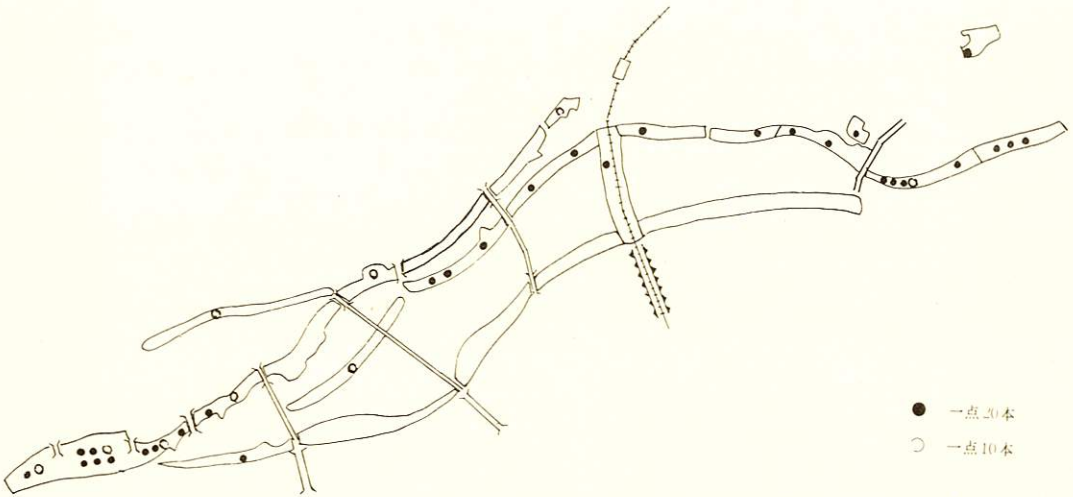
第9-2c 図
 ケヤキ *Zelkova serrata*



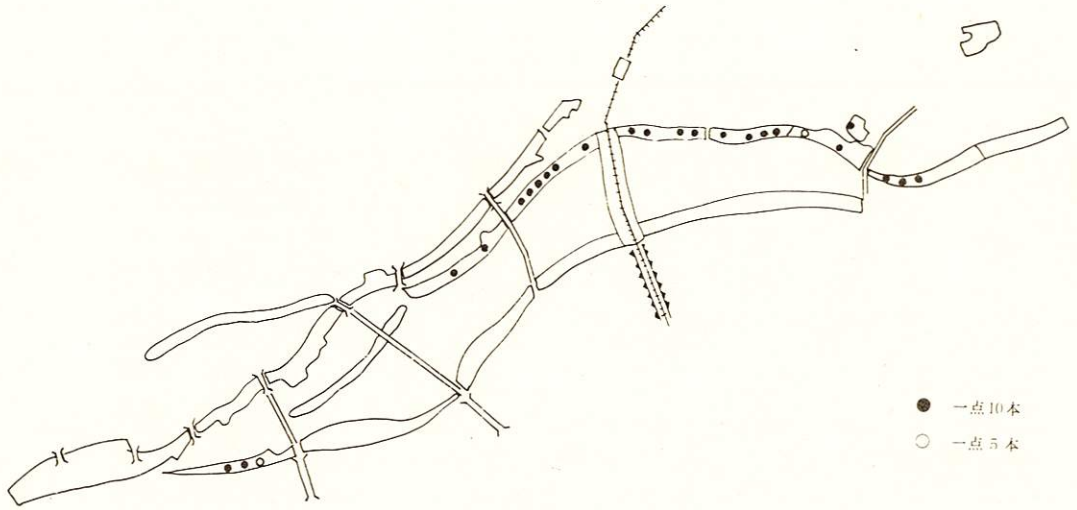
第9-2d図
イヌシデ *Carpinus Tschonoshii*



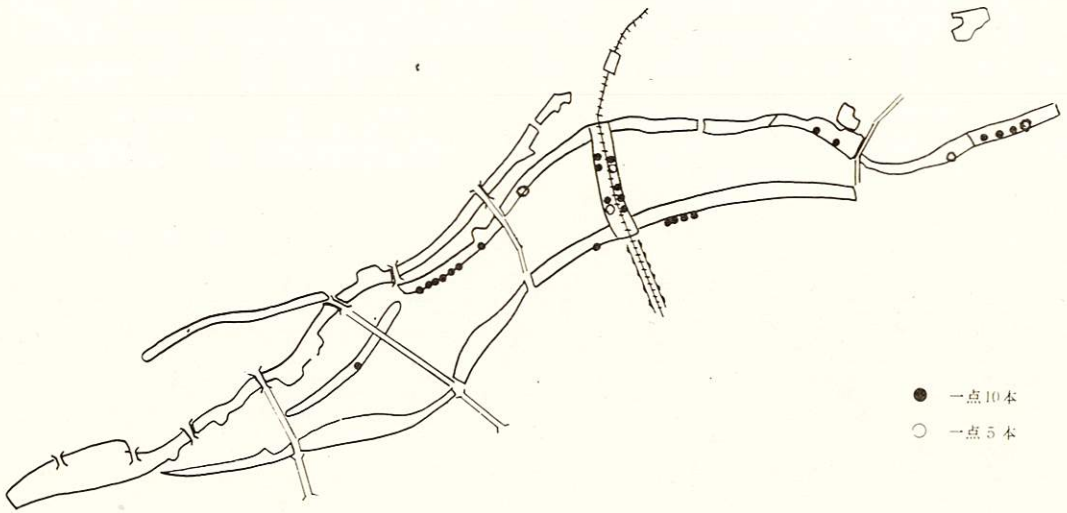
第9-2e図
エノキ *Celtis sinensis*
var. *japonica*



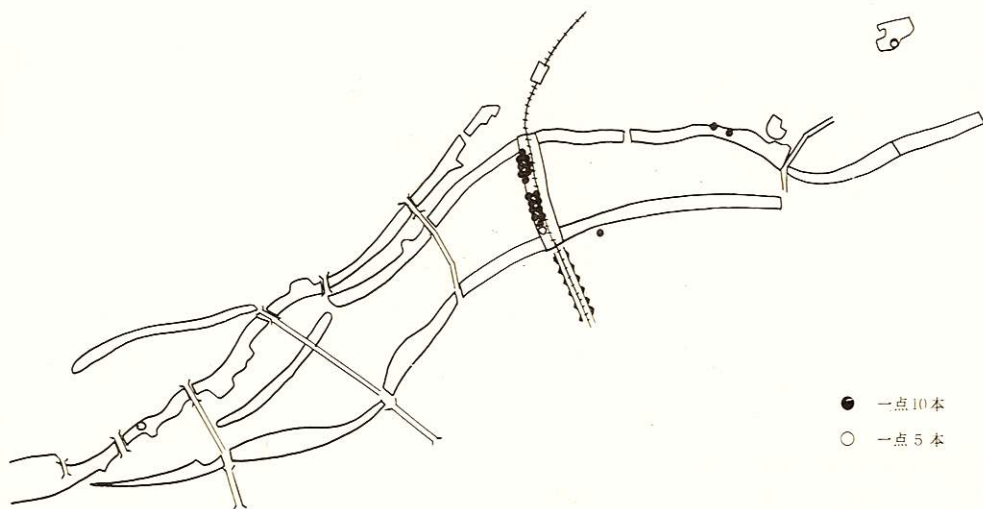
第9-2f 図
ムクノキ *Aphanatha aspera*



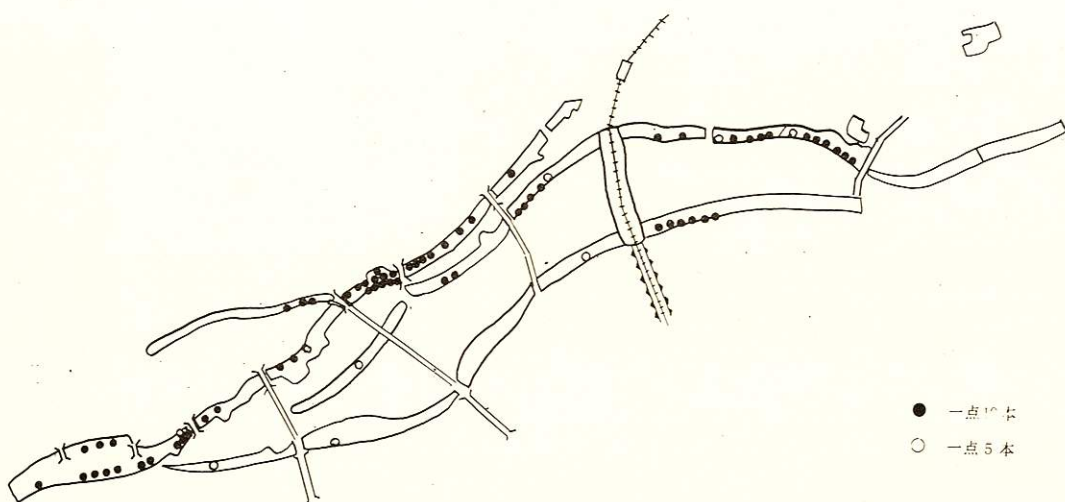
第9-2g 図
ヌルデ *Rhus japonica*



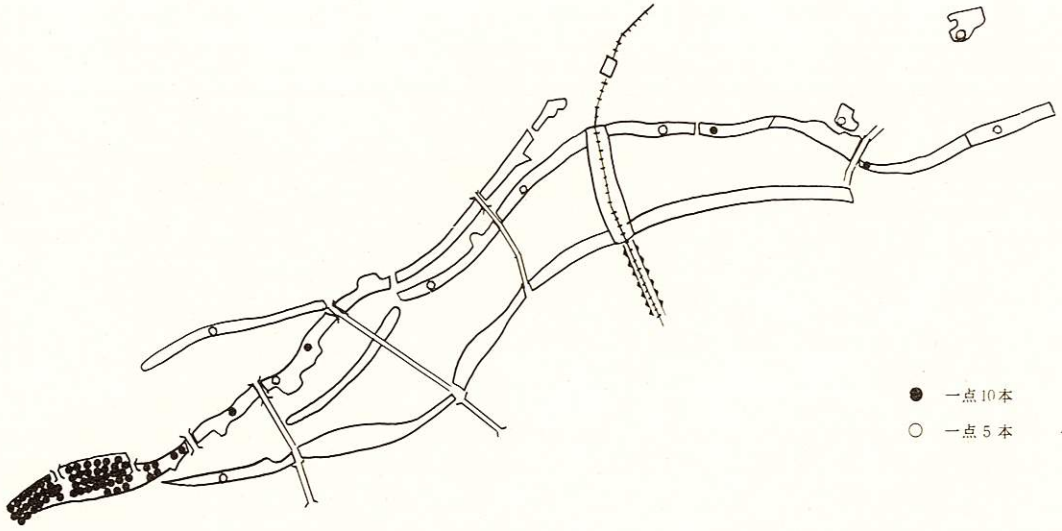
第9-2h 図
タラノキ *Aralia elata*



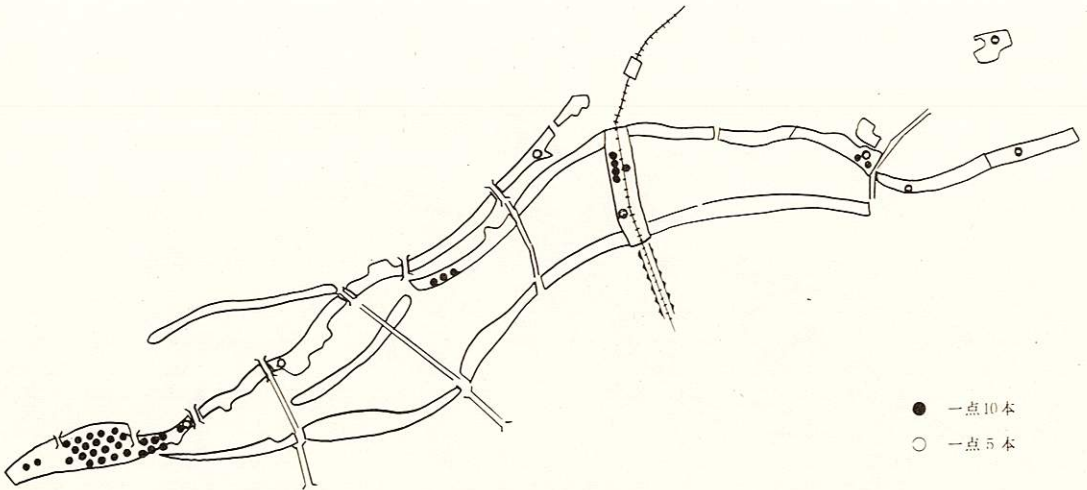
第9-2i 図
クサギ *Clerodendron trichotomum*



第9-2j 図
ムラサキシキブ *Callicarpa japonica*

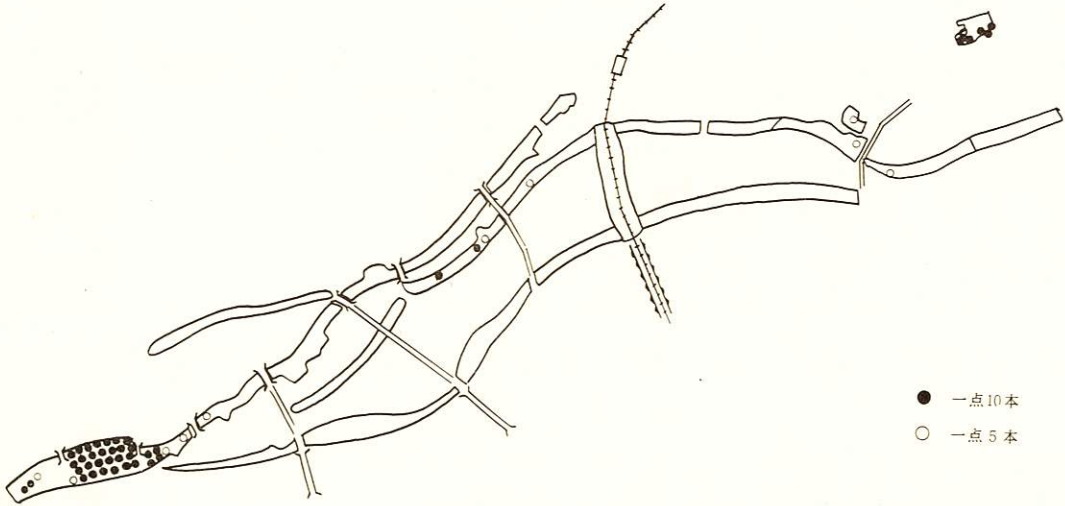


第9-2k 図
ガマズミ *Uiburnum dilatatum*



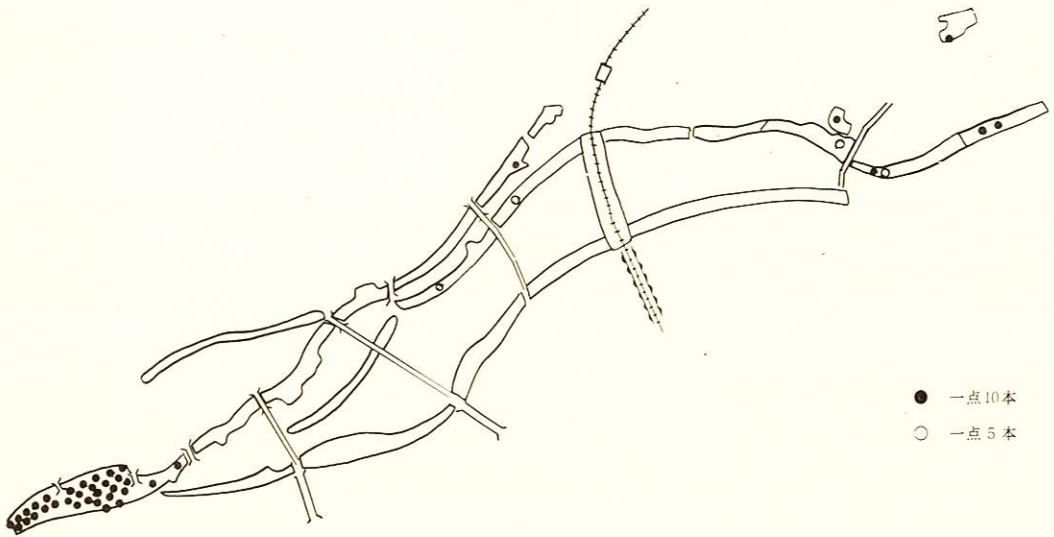
第9-21図

カマツカ *Pourthiaea villosa*
var. *laevis*



第9-2m図

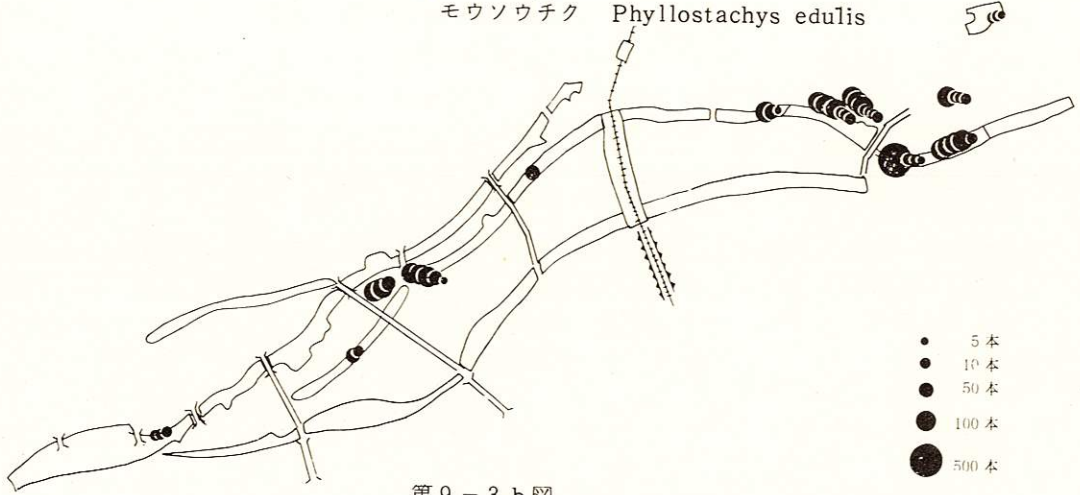
イボタノキ *Ligustrum Iбота*
var. *angustifolium*



第9-3 a 図

モウソウチク

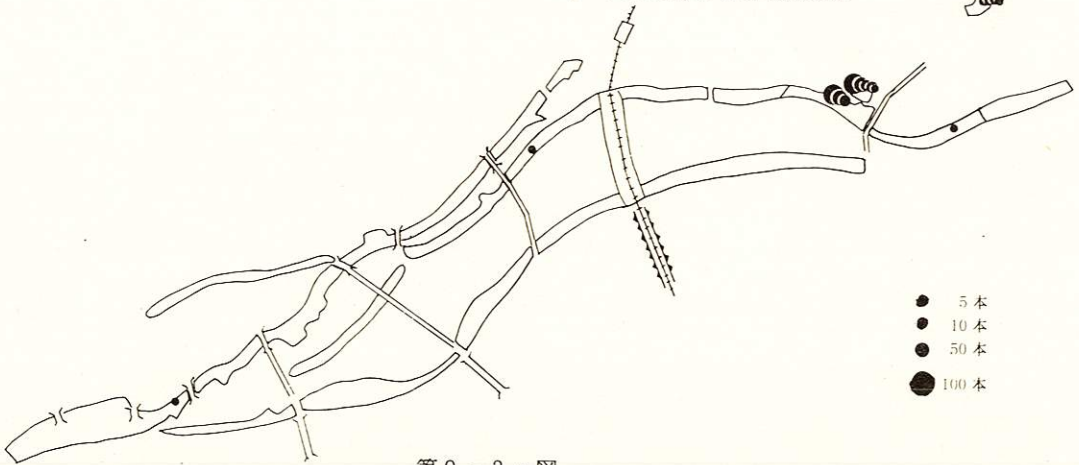
Phyllostachys edulis



第9-3 b 図

マダケ

Phyllostachys reticulata



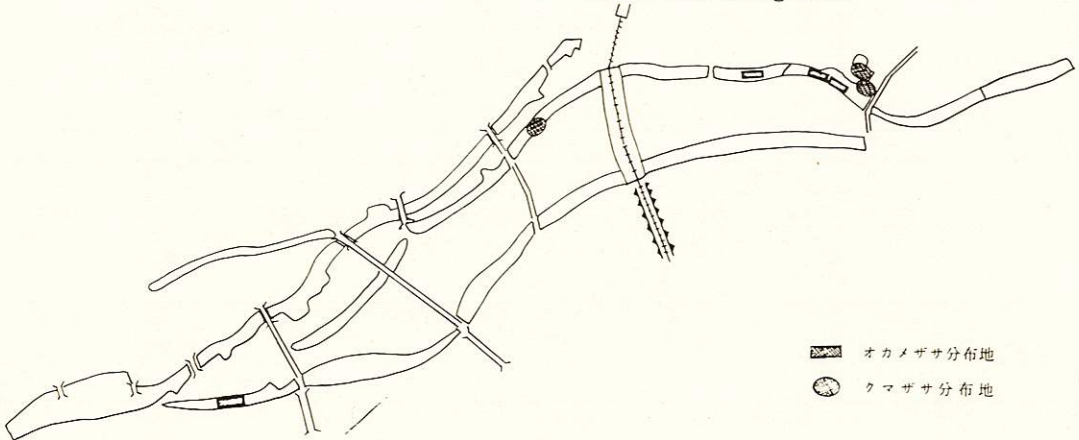
第9-3 c 図

オカメザメ

クマザサ

Shibataea Kumasasa

Sasa albo-marginata



林相について

生育樹木がどのような林相を呈するかは、そこにどれだけの樹木が生育するかという個体量とそれに基く密度、それを構成する樹種数とその樹木の大きさ、生活型などによって様々に変貌する。

第10図は、各調査区の林相を数量的にあらわしたものである。主に、常緑樹、落葉樹との区分けと、高木、中木、低木の樹高区分を組合せてあらわした。グラフの右側は、樹高別階層の樹木量（個体数常・落区分）をあらわし、左側はそれらの樹木の積層量によって林相をあらわしたものである。同時に図上に調査区と密度を示して参考とした。

この図から、個体数と調査区の広さをもとに算出した密度の側面から林相を区分すると、次のようになる。

比較的密度の高い林相地区……A-1, A-2, A-3, A-4, B-2, D-2, D-5, D-6, H, Sの10ヶ所

普通の林相地区……B-3, D-1[※], D-7[※], E-1の4ヶ所

疎林相の地区……B-1, C-1, C-2, C-3, D-4, D-8, D-1a, D-1b, E-2[※], Gの10ヶ所

過疎林相の地区……E-3, E-4, E-5の3ヶ所

以上のうち、疎林相は樹林形成までに達せず、樹木点在の状態に近い様相を呈し、過疎林相はむしろ草地型に近く、そこに時々樹木の存在を認めるほどの状態と考えてよい。※印をした地区のうちD-1, D-7区は竹林を合せて考えれば比較的密度の高い林相地区とする方がよい。またE-2区はその中に柳山公園、花園公園があるため実態上は、北側は樹木量多く、南側は草地に近い過疎区と考えて二分することもできる。

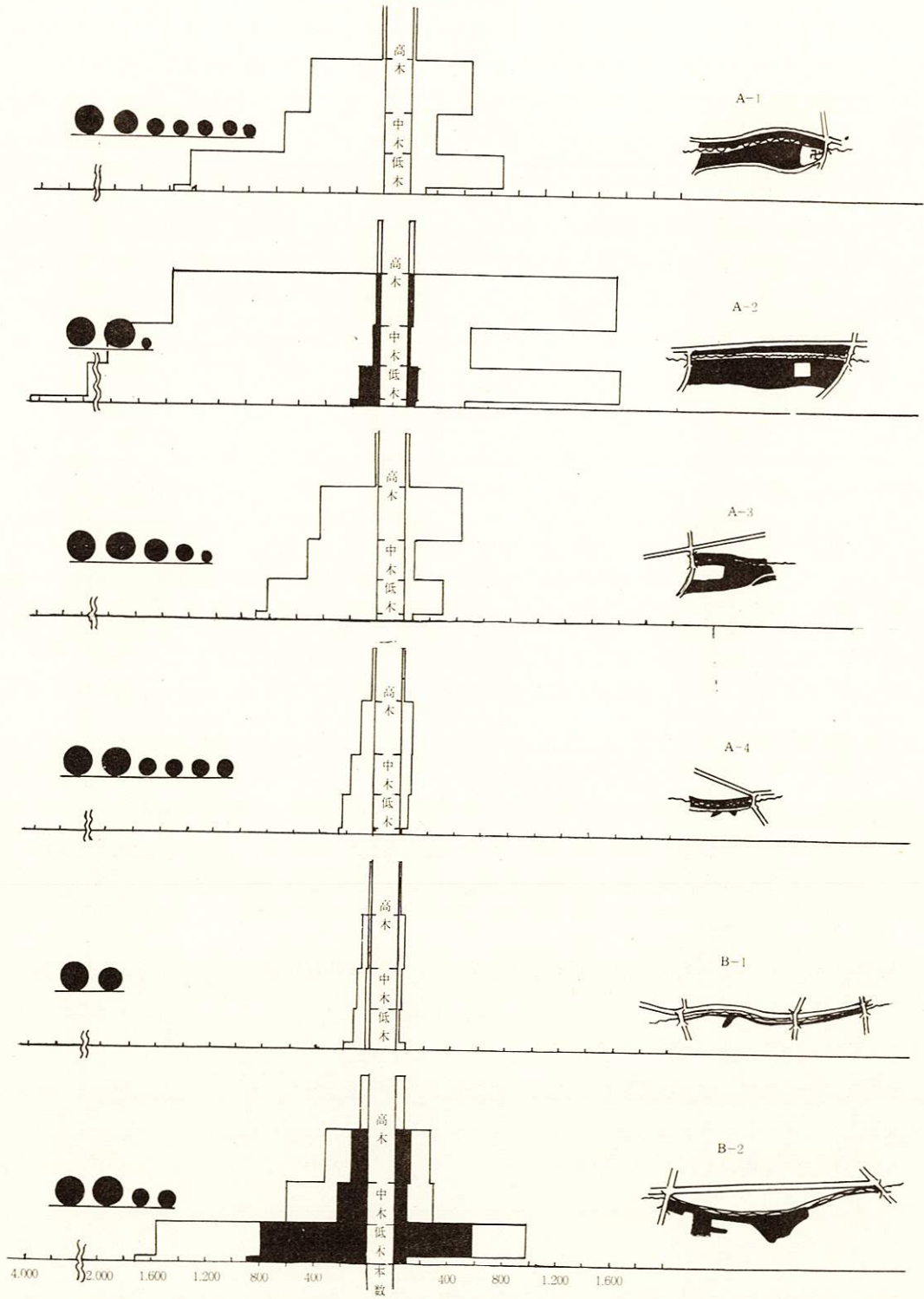
樹木林を構成する個体量の積層分布から林相を区分すると、下層から上層に分布がピラミッド型に安定した形を示すもの、柱状型を示すもの、個体数多く偏平型をとるものなどがある。

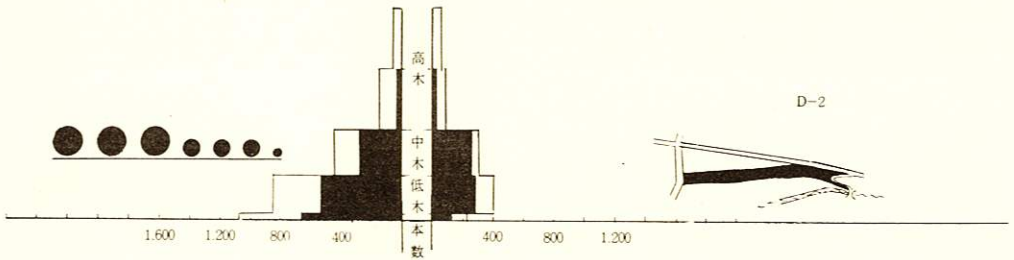
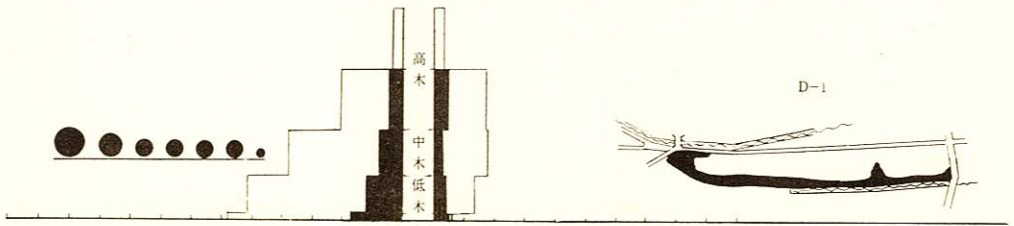
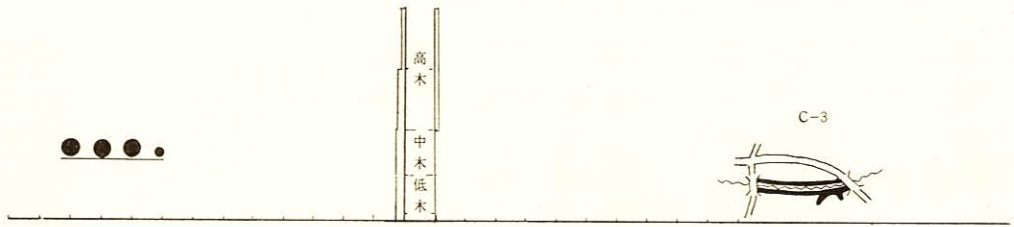
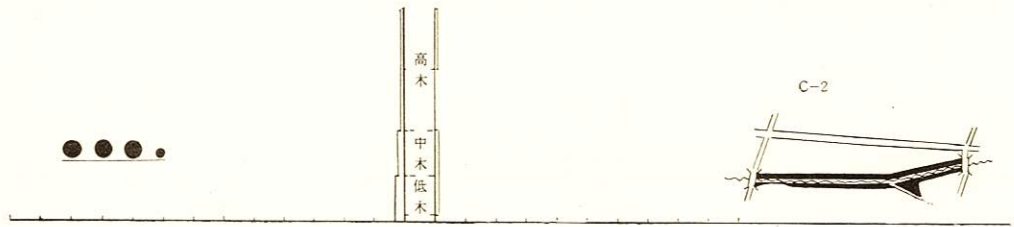
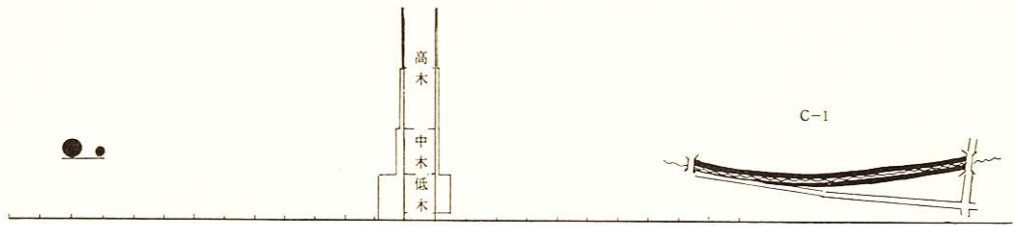
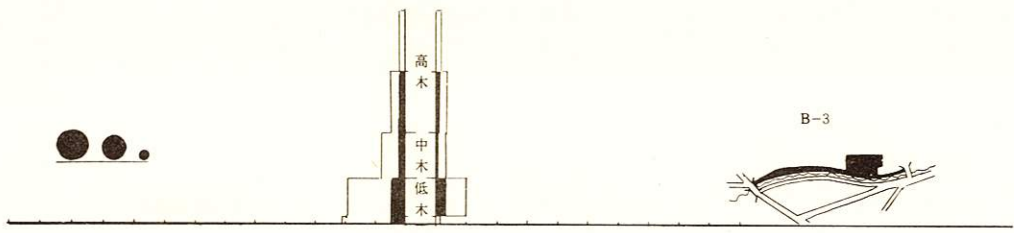
ピラミッド型……常緑樹優占型（D-2, S）落葉樹優占型（D-5, D-6）、常落均衡型（B-2）の5地区があり、いずれも、常緑樹と落葉樹とが混生した密度の高い地区である。この型の地区は林相の安定性に富むところである。

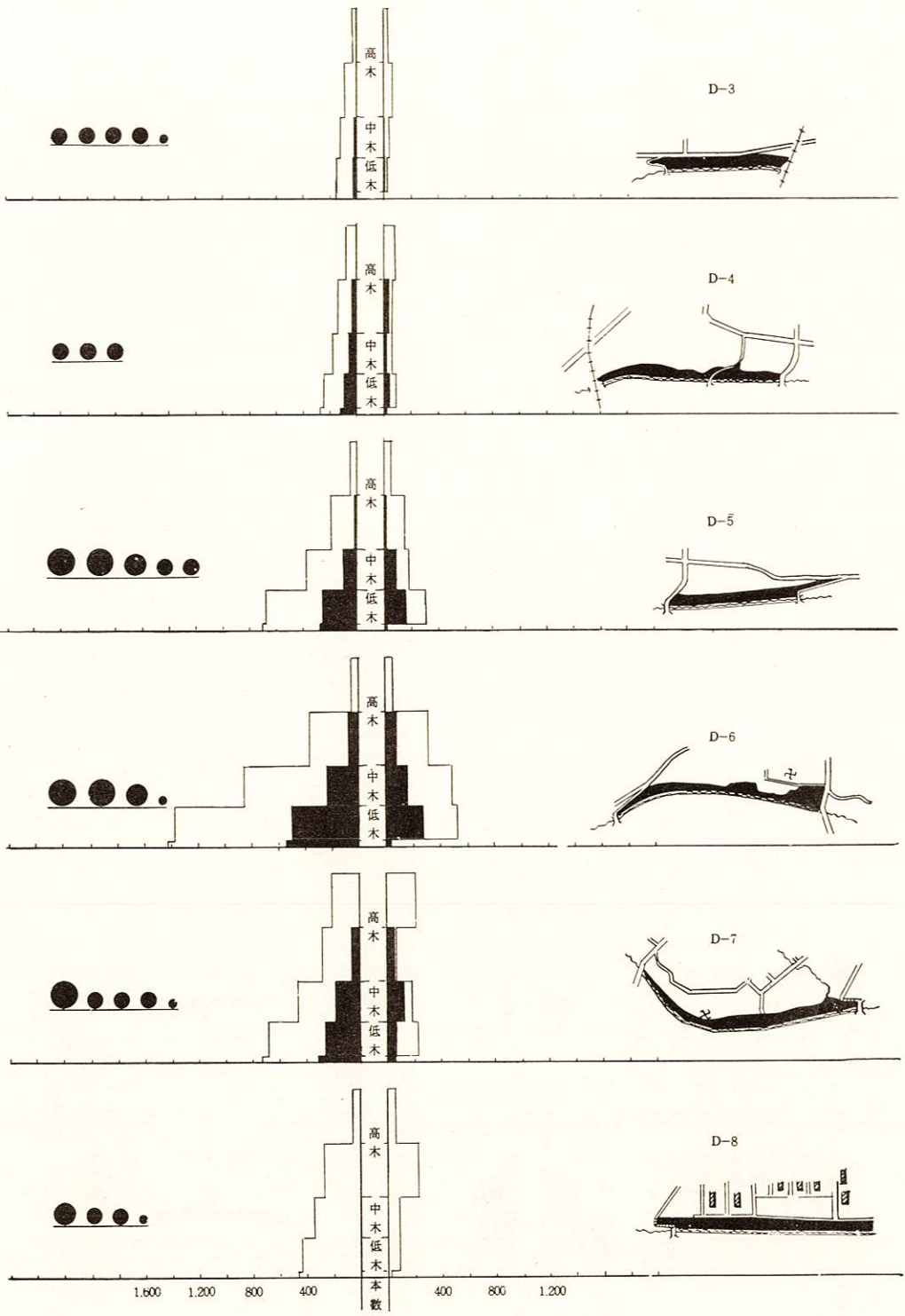
柱状型……これには高木落葉型を筆頭に単一生活型に属する樹種で構成される場合が多く、高木を中心とした区にB-1、中木落葉型のE-3、低木落葉型のE-5など多くの地区を見ることができ、これらは主として疎林、過疎林である。

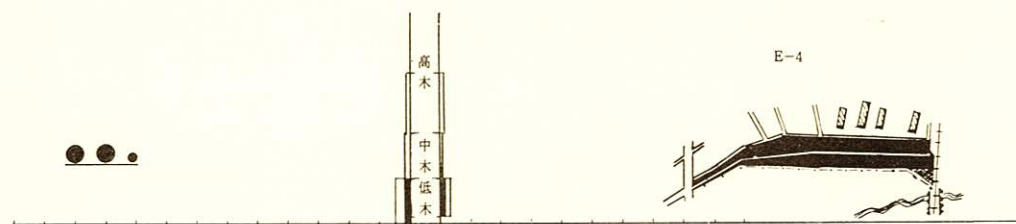
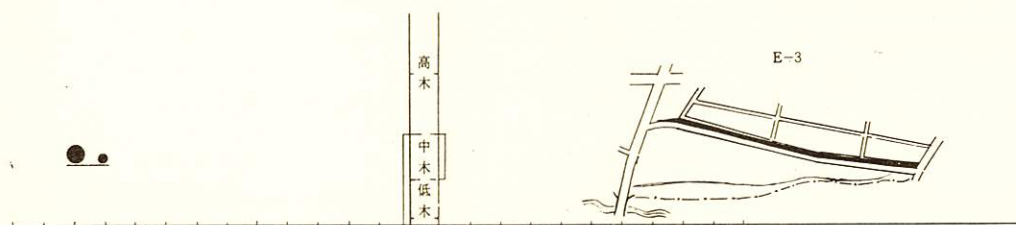
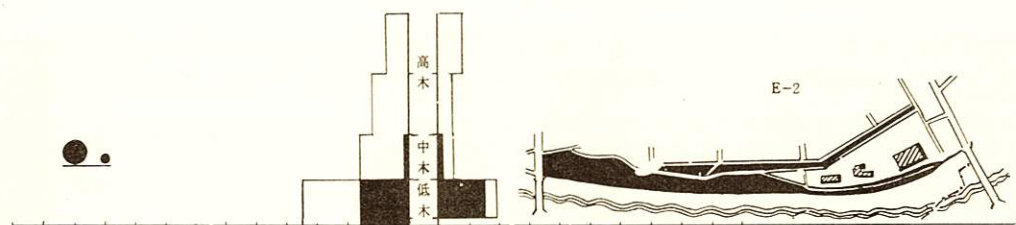
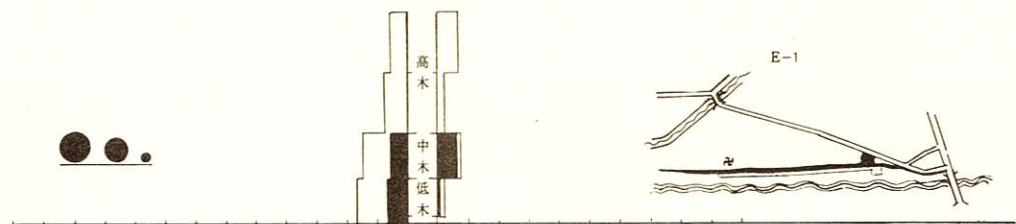
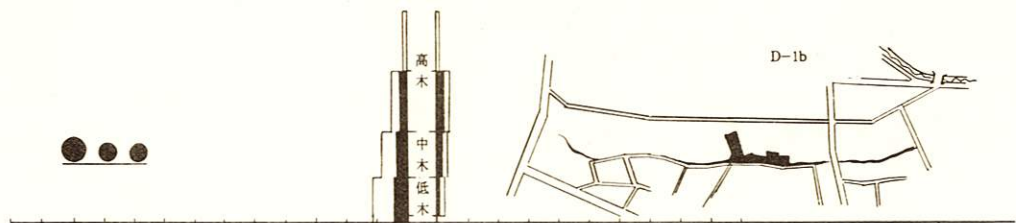
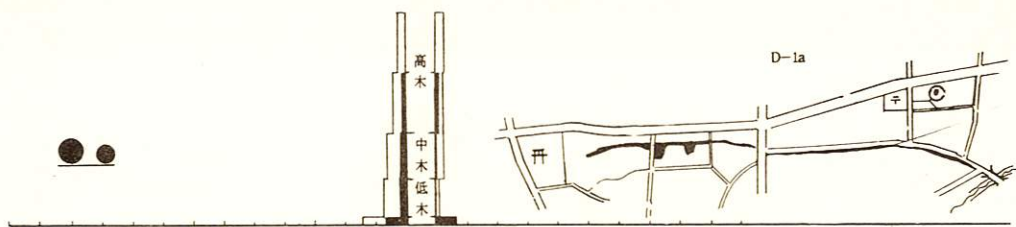
偏平型……これは、樹木の個体数が多く、単一生活型の樹種で林相を形成し、比較的明るい落葉樹林でA-1, A-2, A-3の各区とH区のように密度の高い主要な樹林となっている。様々な林相の中から代表的な樹林を形成する地区5ヶ所（A-2, B-2, D-2, D-6, E-1）の概念図を第11図として掲げ、その姿を例示した。

第10図 生活型区分による地区別の林相

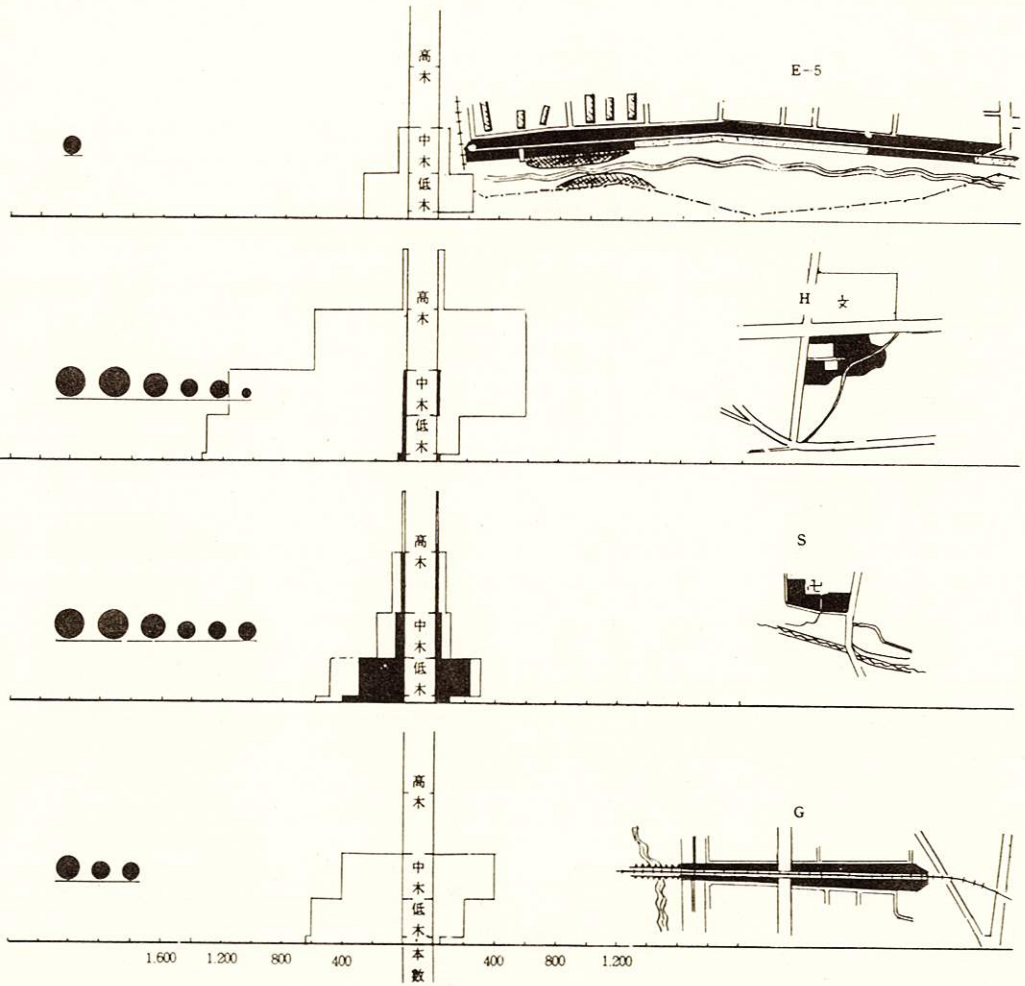








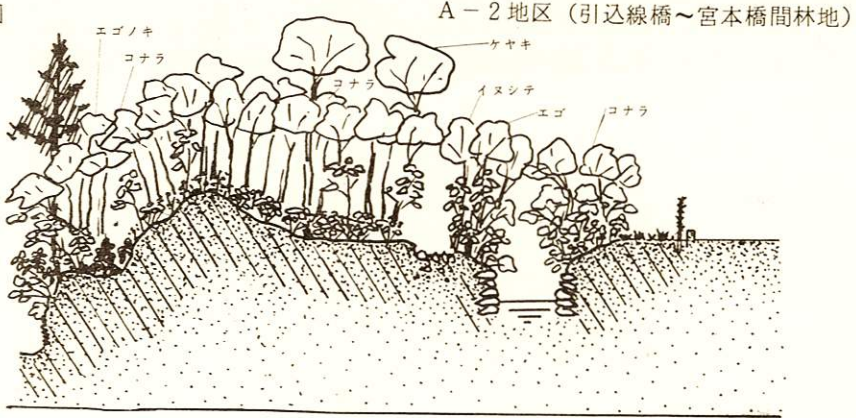
1.200 800 400 400 800 1.200



- 註 i 地 図 - 黒くぬりつぶした部分が調査区である。
 ii グラフ - 白い部分が落葉樹。黒くぬりつぶした部分が常緑樹。
 右側が樹高階層別樹木相。左側が積層樹木相。
 iii 密 度 - $(10\text{m})^2 / 4$ あたり個体数。

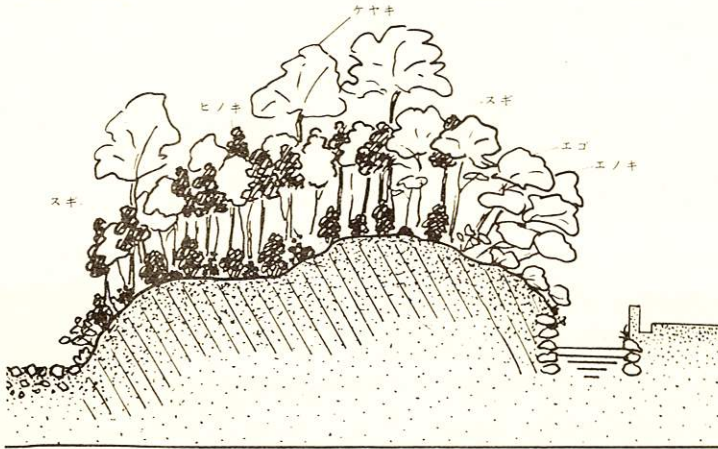
● 10本 ● 5本 ● 1本 ● 0.5本

+ 第11-1 図



第11-2 図

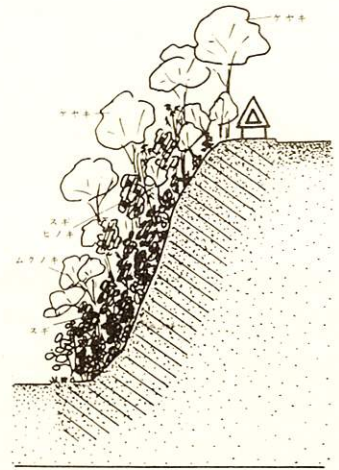
B-2 地区 (新橋~清岩院橋間の林地)



第11-3 図

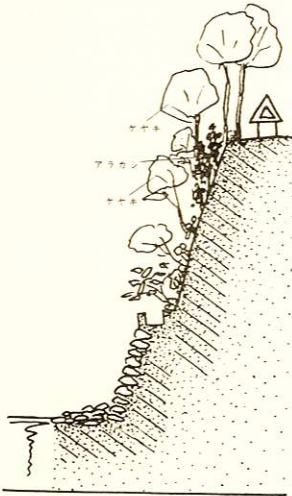
D-2 地区

(牛浜十字路口~幸楽園下間の林地)



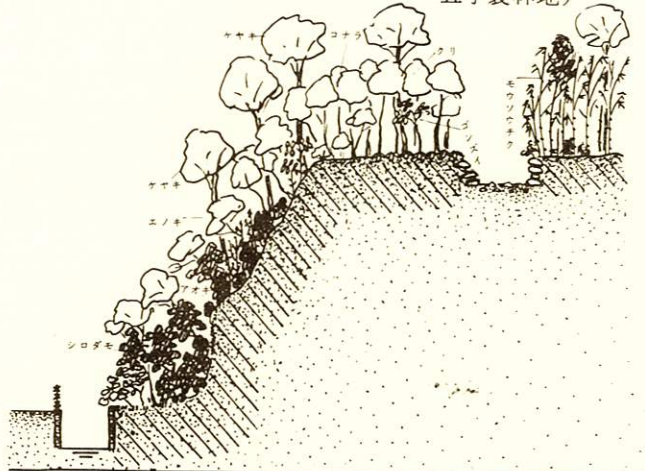
第11-4 図

E-1 地区 (長徳寺裏~永田橋間の崖)



第11-5 図

D-6 地区 (熊川神社下~熊川新坂下間、五小裏林地)

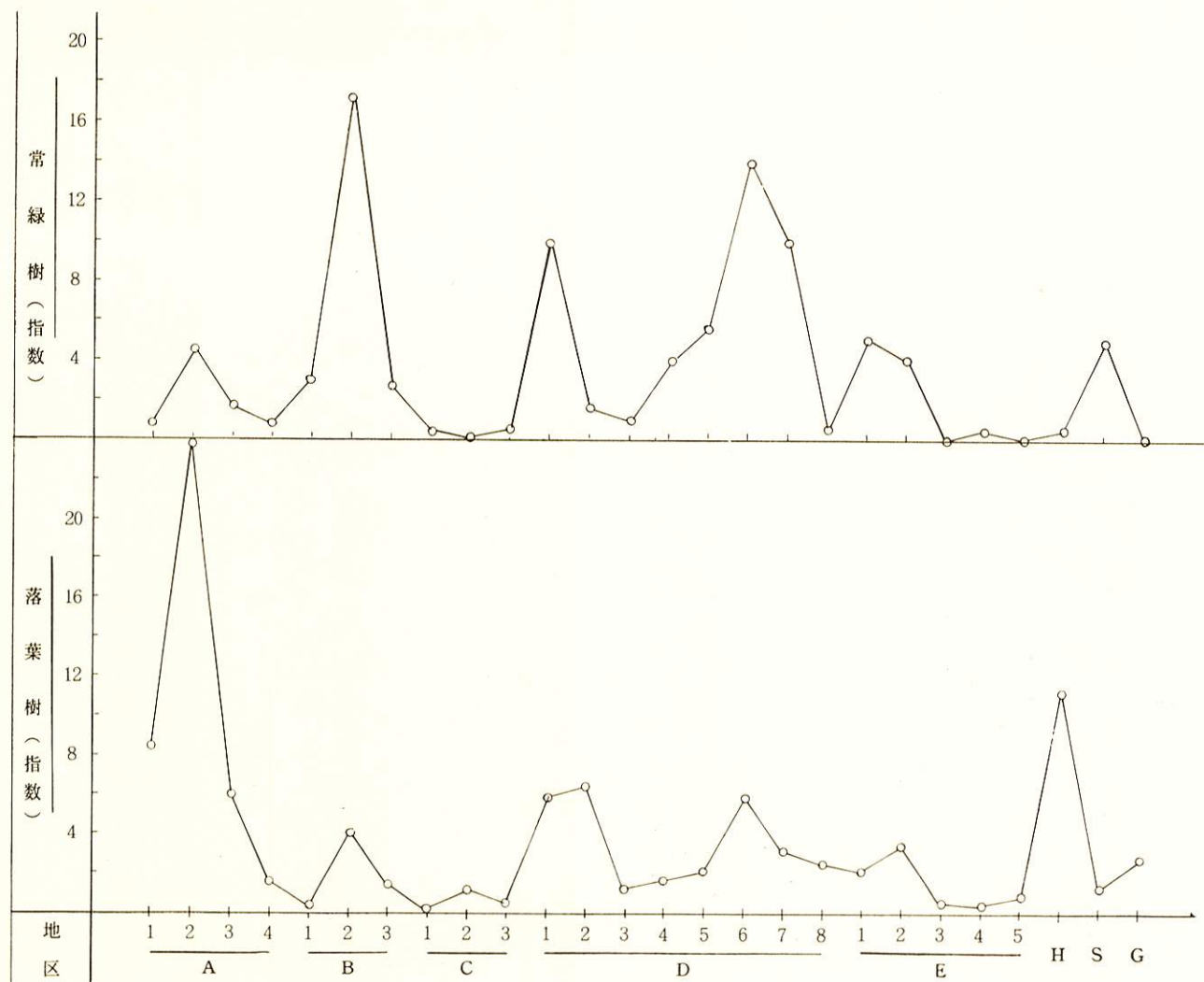


樹木と「みどり」について

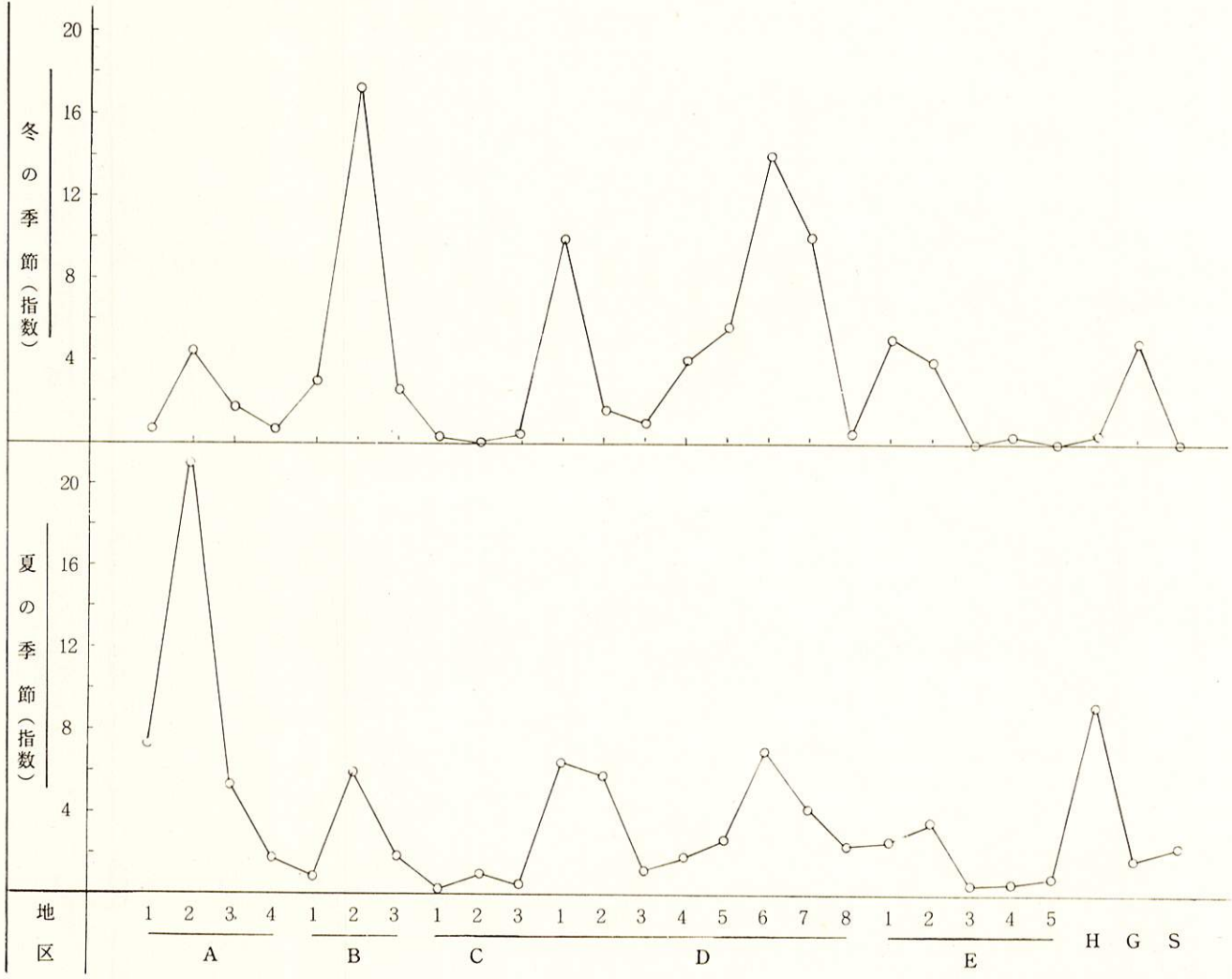
「みどり」の存在が景観的、心理的な効用を超えて、植物そのものが自然のサイクルを担う存在として、人間の生存と根底で深いかかわり合いを持っていることについて既に述べた。しかし、日常的にはやはり目に映る「みどり」の豊かさは、人間の心にやすらぎを呼びさまし、そこに生き、生活する者にとって郷土感を育くみ、人間性を培うのに役立つ側面を持っている。市内に野生する植物が、この「みどり」をどういう形で担っているか見てみよう。樹木を生活型で分けて「みどり」のパターンとしてあらわすと第12図、また季節的にそれをあらわすと第13図のようになる。この両図をつき合せて観察すると、冬の「みどり」を支えているものが常緑樹であり、夏の「みどり」のパターンは落葉樹のそれと酷似していることがわかる。この組合せの中で「みどり」が形成され、特に樹林の整った中心的地区（A-1, B-2, D-1, D-6, D-7）では互いに常落関係と季節的關係とが美事に補償されている。そこに、これらの地区が「みどり」を保障する上で大事な地区である所以である。図上で山形をした部分がそれにあたり、多摩川沿域の「みどり」の豊かさを維持する一つのポイントである。ただし、この地区は必ずしも生育環境が安定しているとはいえない状況下に置かれていることに留意しないと、この「みどり」の維持は困難に当面すると考えられる。

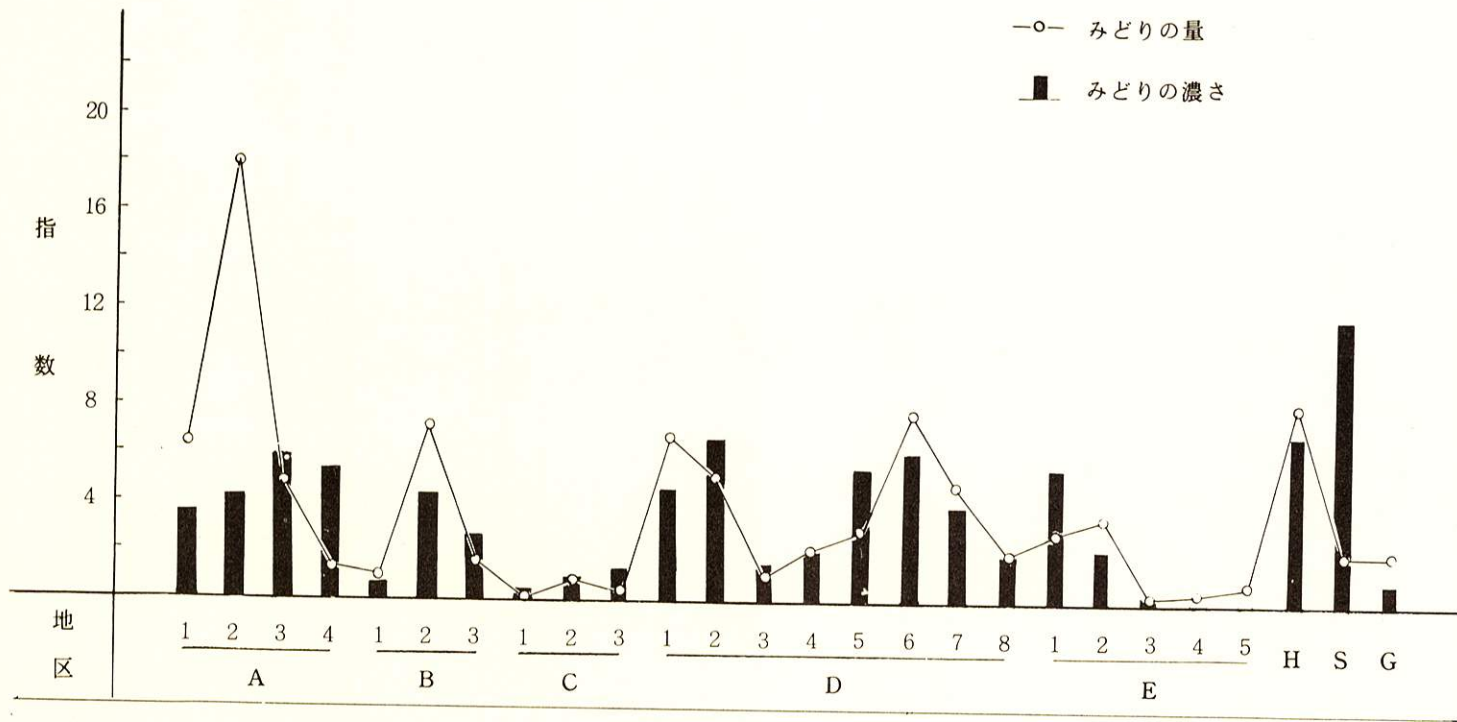
もう一つの側面で段丘崖の樹林の重要性を検討して見よう。段丘崖樹林は、一面で樹木量の実態以上に「みどり」の豊かさを強調する効果があり、他面では実質的に少ない「みどり」を、豊かであると錯覚する危険との谷間で存在を主張していることである。これを分析的に解説すれば第15図のようになる。「みどり」の視野は周辺視野よりはるかに狭く、仰角30°、左右各々約70°といわれているが、これをもとにして、段丘樹林と平地林とでは「みどり」の視野にどううつるかを作図で例示した。これでわかるように、段丘崖に形成された樹林と平地林との場合に、同一量の樹林であっても、視覚的に受ける「みどり」がどれだけちがって受けとられるかがわかるであろう。多摩川沿域の田園地域の各地（A, B, C, D, E地点）から見た模式図から、段丘の「みどり」は「ウインドの装い」として飾りたてられていることに気付く。従って、段丘林の「みどり」については、効果的活用と、適格な判断に基く保全とが併行的に行われないと、急速に生態的弱点を露呈する性質を内包している。

第12図 生活型と「みどり」のパターン

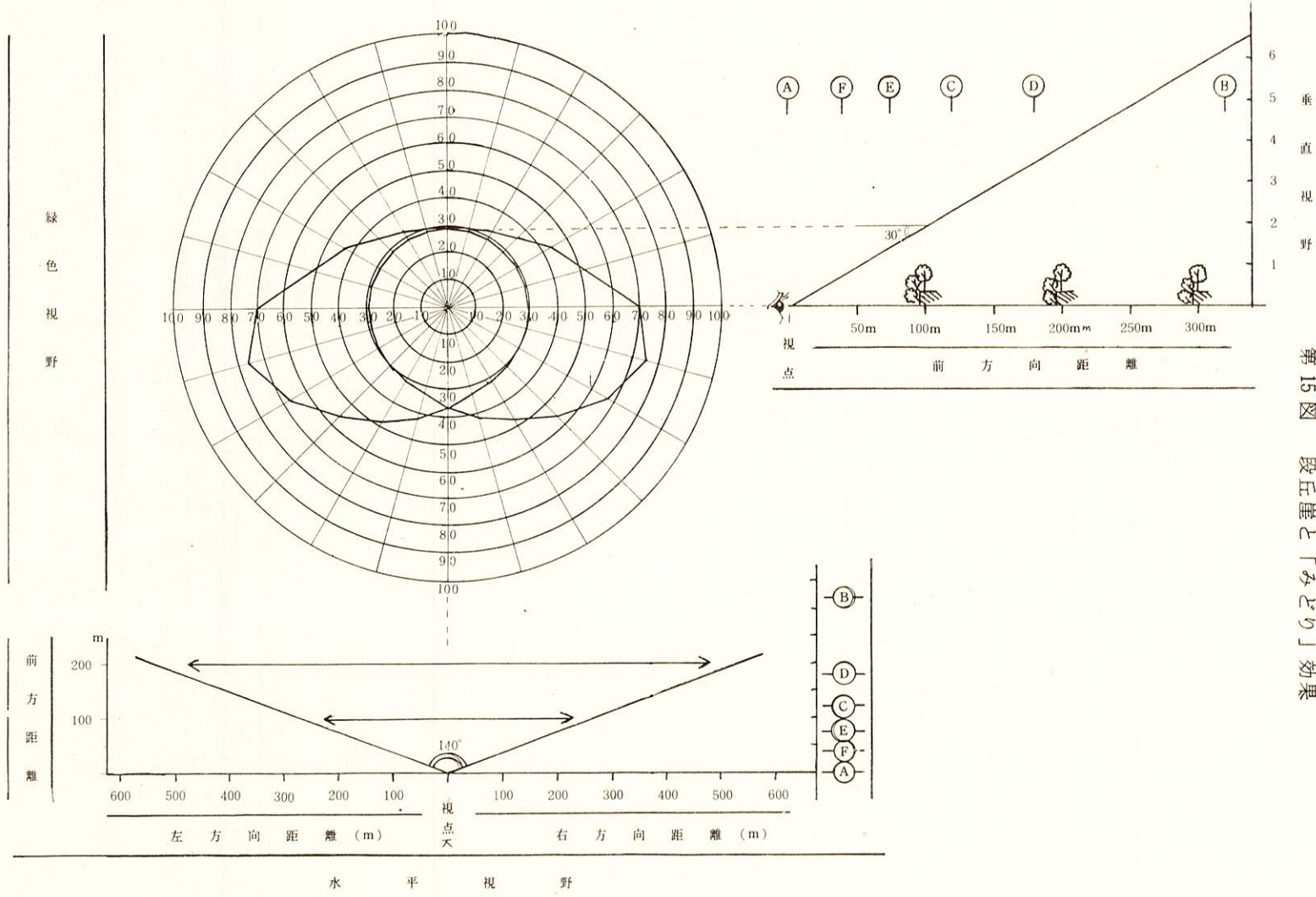


第13図 季節と「みどり」のパターン





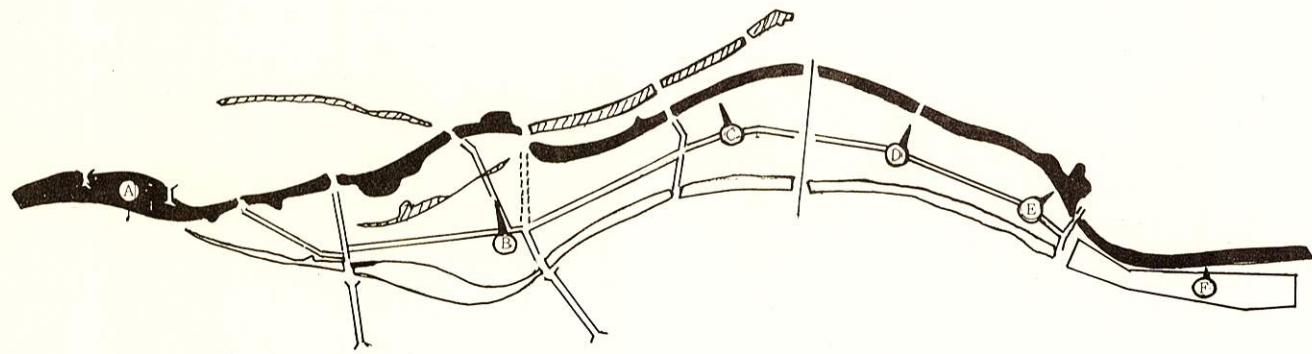
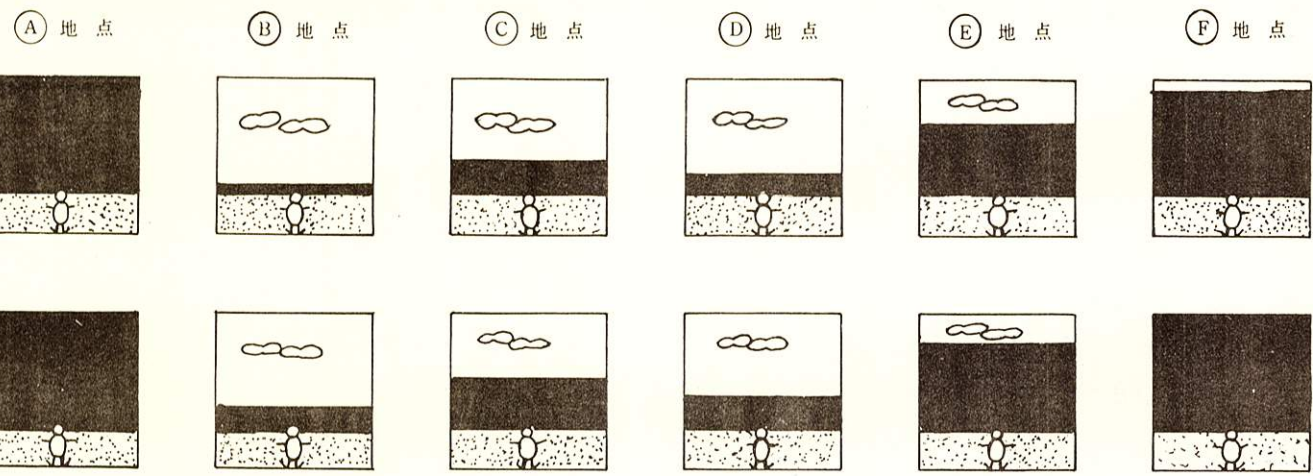
第14図 「みどり」の量と「みどり」の濃さ



第15図 段丘崖と「みどり」効果

非段丘（仮定）段丘崖
 緑・視野占有度

視点位置・方向図



IV 植栽樹

植栽樹の概要

多摩川沿域の樹木・竹類 28,284 本のうち、公共施設（小学校、公園緑地）および社寺に植栽されているのは 6,586 本で多摩川沿域の全植物数のうち野生するもの 76.7% に対して社寺 4.6%、小学校 4.9%、公園緑地 13.9% の計 23.3% が植栽樹となっている。樹種数は全 305 種類中で野生するもの 217 種類 (71.2%) に対して植栽樹のそれは 181 種類 (59.3%) である。

植栽樹の占める割合が、予想以上に高く、環境の緑化に果している役割を裏づけている。このことは福生市における緑地造成、公園設置に当って樹木の植栽計画の当否が重要性をもっていることとなる。逆にいえば、それだけ野生の樹木類の少ないことを意味しているから、この保護、保全に留意しないと公共施設の緑化による効果も、その機能を半減しかねないことを示唆している。

植栽樹は一般的に野生樹林よりも常落比が接近し、常緑樹の方が多く植えられている場合が多く、また個体数の割合には種類数の比が高い。こればかりではなく、生育する場所の配置の上で、地域的均衡が計られて分散的であるところに野生樹とはちがった側面を持っている。この側面の活用こそ、公共施設における植栽樹の独自の舞台であり、役割でもある。

社寺の植栽樹について

多摩川沿域の神社 4 ヶ所、寺院 4 ヶ所（他に未調査 2 寺院）について植栽樹を調べた。全部で 932 本、常落比 0.64（神社関係 0.71、寺院関係 0.55）で落葉樹の 1.5 倍の常緑樹が植栽されている。この構成比は、冬季における「みどり」の欠乏感を補うのに役立っている。社寺関係の樹木量は第 8 表として掲げた通りであるが、社寺は市街区を中心からやや離れたところ、旧村落地区に分布する傾向があり、福生市の場合もその例外ではない。しかも、その場所は自然の地形、地勢と深くかかわり合って点在し、自然の植物帯の流れの中に位置してその一部を形成しているといっても過言ではない。このことは、社寺およびその周辺の樹木類が失われるとすれば、その地点で自然の植物帯を切断することに通じる。こうした状況を生態的に見ると、そこを起点として自生の樹林に対して環境を変える働きをし、生育条件の悪化要因となる。従って、社寺の植栽樹は境内の植木ということとは別に、野生する樹木の保全とのかかわり合いを生む点で家庭の植栽樹とちがった見方をすべきであろう。樹種別に主要な植栽樹を第 9 表に掲げたが、これらの樹木の保全、植栽樹の拡充に期待し、段丘帯の生態環境の維持に寄与することを願うものである。

第8表 社・寺境内の樹木・竹類

区 分	樹 木 類											竹 類		
	個 体 数							種 類 数				個体数	種類数	
	総本数	常緑樹	落葉樹	落葉	常緑	総種数	常緑樹	落葉樹	種 種	種 種				
本 %	本 %	本 %	常緑	種 %	種 %	種 %	本 %	% 種						
社・宮A	125	21.2	80	23.1	45	18.4	0.56	29	50.9	14	15	21	27.6	2
B	158	26.8	55	15.9	103	42.2	1.87	23	40.4	13	10	20	26.3	2
C	29	4.9	21	6.1	8	3.3	0.38	10	17.5	7	3	35	46.1	1
D	278	47.1	190	54.9	88	36.1	0.46	27	47.4	19	8			
S-T	590	100	346	100	244	100	0.71	57	100	34	23	76	100	3
A	31	9.1	20	9.0	11	9.1	0.55	17	25.8	13	4	67	25.1	1
B	98	28.7	52	23.5	46	38.0	0.88	36	54.5	17	19	200	74.9	3
C	78	22.8	53	24.0	25	20.7	0.47	24	36.4	14	10			
D	135	39.5	96	43.4	39	32.2	0.41	30	45.5	19	11			
S-T	342	100	221	100	121	100	0.55	66	100	33	33	267	100	3
合 計	932		567		365		0.64	92		43	49	343		5

註 長徳寺, 清岩院未調査

第9表 社・寺の主要植栽樹種

A 神社				B 寺院			
樹 種	個体数	寺院数	主要植栽地	樹 種	個体数	寺院数	主要植栽地
ツツジ	86	2	B, D	マンリョウ	35	1	D
スギ	77	3	D	シュロ	28	4	D, A, C, B
ヒサカキ	55	3	D	ナンテン	25	3	A, C, D
ヒノキ	37	4	D, B, C	ヤブツバキ	24	3	C
イチョウ	34	4	D	アオキ	19	4	D, B
ドウダンツツジ	30	2	D	ツツジ	16	2	D
ヒマラヤスギ	25	1	D	ドウダンツツジ	15	2	D, C
ソメイヨシノ	24	2	B, D	ウメ	13	2	C
チャ	24	1	A	イヌツゲ	12	3	C, B, D
ケヤキ	16	4	A, D	サツキ	10	1	B
イヌツゲ	15	3	D, B	チャ	※	2	B, C
アオキ	13	3	A				
ウメ	13	1	A				
シロダモ	11	1	A				
エノキ	10	4	A				

註A 一種10本以上を表示

全体数666本のうち546本(内常緑樹257本、竹類76本)

全種類57種のうち18種(内常緑樹8種、竹類3種)

註B 1. 一種

全個体数609本のうち476本(内常緑樹157本、竹類279本)

全種類69種のうち13種(内常緑樹7種、竹類3種)

2. 長徳寺、清岩院は未調査

小学校の植栽樹について

学校関係の植栽樹の調査は、小学校だけを対象にした。調査地域内には第一小学校、第二小学校、第四小学校、第五小学校および第七小学校の5校がある。5校の樹木数を合せると1,376本、127種類で個体数から見ると常落比0.86と常緑樹が落葉樹の約1.2倍植えられている。樹種では常緑樹が55種類、落葉樹では72種類を算えた。第10表で第二小学校の樹木数の多いのは垣根用サワラを算入したためで、実態上は学校間にそれほどの較差はなかった（七小は調査時に未植栽で、調査後植栽されている）。ただ歴史の古い学校と新しい学校とでは個々の樹の大きさに差がある。

第11表に樹種別の数量と主要植栽校を挙げたが、ツツジ類（サツキ、ドウダン、キリシマ、オオムラサキ、その他のツツジ類）を合せると310本となり、全体の23%を占めている。次いで多いものはサクラ類（ソメイヨシノ・サトザクラ）で89本、イチョウの83本、このほか「市の木」モクセイが35本となっている。ヒマラヤスギ、メタセコイヤの喬木性樹種を除けば、全体的に低木類が多く植えられている。学校では、校庭の利用上から植樹量に制約を受けるが、植樹に教育的な配慮を加えることが望ましい。例えば、園芸樹種を加えることに終始せず、郷土に自生する樹種の中から支障のない樹種を選定し、あるいは教材的に利用価値のある樹種を選び、小規模な樹園を敷地の一部に設定するなど一つの考え方であろう。都心に比べ、敷地に恵まれている条件を活用することで自然愛護、郷土感の育成に通じる道を拓くことができる。住宅地区に囲まれた市街区の学校では、広空間が光化学スモッグなど大気汚染の影響を強く受け易く、樹陰を設定して置くことも今後のために必要なことであり、これに関連してサクラなども抵抗力のある種類（例えば大島ザクラ）を選び、後世までも入学式に花を添えられるように考えるなど、今後この点から学校特有の植栽樹の位置づけをして、緑化が学校という場で少しでも有効に生かされるよう検討して行くことが望ましいと考えられる。

第10表 小学校植栽樹木

区 分	個 体 数								種 類 数				
	総本数		常 緑 樹		落 葉 樹		落 葉 常 緑	総 種 類		常 緑 樹		落 葉 樹	
	本	%	本	%	本	%		種	%	種	%	種	%
第一小学校	333	24.2	181	24.5	152	23.9	0.84	56	44.1	27	49.0	29	40.3
“二”	523	38.0	298	40.3	225	35.4	0.76	70	55.1	28	50.9	42	58.3
“四”	292	21.2	172	23.2	120	18.9	0.70	62	48.8	30	54.5	32	44.4
“五”	228	16.6	89	12.0	139	21.9	1.56	40	31.5	13	23.6	27	37.5
“七”	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1,376	100	740	100	636	100	0.86	127	100	55	100	72	100

註 上記以外の第三・六小学校及び中学校は今回の調査の対象外地域になるので、次年度調査となる。

第11表 小学校の主要植栽樹種

樹種	個体数	学校数	主要植栽校		
サツキ	145	4	第一小学校	第二小学校	
サワラ	115	1	第二小学校		
ドウダンツツジ	99	4	第一小学校	第二小学校	
イチョウ	83	4	第一小学校	第二小学校	第四小学校
キリシマ	75	1	第四小学校		
ソメイヨシノ	70	3	第一小学校		
カイズカイブキ	46	1	第一小学校	第四小学校	第二小学校
ポプラ	43	2	第二小学校		
ヒノキ	41	2	第五小学校		
ツツジ	40	2	第二小学校	第五小学校	
キンモクセイ	35	4	第一小学校	第二小学校	
チャボヒバ	32	1	第二小学校		
オオムラサキ	26	1	第四小学校		
セイヨウバラ	23	1	第二小学校		
ジンチョウゲ	20	3	第二小学校		
トウジュロ	20	2	第四小学校		
サトザクラ	19	3	第五小学校	第二小学校	
ヒマラヤスギ	16	4	第二小学校	第四小学校	
シラカバ	15	4	第二小学校	第四小学校	
ネズミモチ	13	2	第五小学校		
マサキ	13	4	第二小学校	第四小学校	
コデマリ	12	2	第四小学校		
レンギョウ	12	2	第五小学校		
カイドウ	11	1	第二小学校		
ケヤキ	11	2	第二小学校		
ヒイラギナンテン	11	2	第二小学校		
アオキ	10	4	第二小学校	第一小学校	
アオギリ	10	3	第五小学校		

註 一種10本以上を表示

全個数体1,376本のうち1,066本（内常緑樹618本）

全種類89種のうち28種（内常緑樹12種）

公園・緑地・遊園地の植栽樹について

緑地公園・遊園地を含めてこの調査地域には8ヶ所ある。ここに植栽されている樹木類は3,923本、他に密植寄せ植えのため個体数をつかみえなかったアジサイ、ヤマブキが南緑地公園に植えられている。種類総数89種、その内で常緑樹41種、落葉樹48種である。多摩川沿域の総樹木数の14%近くを占めているが、その内容を第12表として掲げた。

第12表 公園・緑地・遊園地植栽樹木

区 分	個 体 数							種 類 数						
	総本数		常緑樹		落葉樹		落葉 常緑	総種類		常緑樹		落葉樹		
	本	%	本	%	本	%		種	%	種	%	種	%	
柳山緑地	261	6.7	21	1.2	240	10.9	11.43	19	21.0	3	7.3	16	33.3	
花園公園	1048	26.7	995	57.5	53	2.4	0.05	15	16.6	11	26.8	4	8.3	
遊園地A	145	3.7	113	6.5	32	1.5	0.28	14	15.5	7	17.1	7	14.6	
遊園地B	129	3.3	49	2.8	80	3.6	1.63	23	25.5	11	26.8	12	25.0	
ホテル公園	314	8.0	214	12.4	100	4.6	0.47	23	25.5	10	24.4	13	27.1	
遊園地C	99	2.5	24	1.4	75	3.4	3.13	11	12.2	4	9.8	7	14.6	
噴水公園	856	21.8	213	12.3	643	29.3	3.02	48	53.2	26	63.4	22	45.8	
南緑地	1071	27.3	102	5.9	969	44.2	9.50	7	7.8	2	4.9	5	10.4	
計	3,923	100	1,731	100	2,192	100	1.27	89	100	41	100	48	100	

註 遊園地A 第七小学校北方段丘下

遊園地B 第二すぎの子保育園の北

遊園地C 片倉工業段丘下

遊園地などそれぞれの広さや設置の目的によって植栽量、植栽樹種にちがいが生れてくる。そこで、主要な樹種の量と植栽主要地を第13表に示したが、小学校の樹種と同様にツツジ類の多いのが目立つ。これらの施設には、植樹が主体となるものと、その施設の美化という補助的役割を果すための植栽樹とがある。いずれにせよ広い意味で憩いの場として設けられているため、春の花、夏の緑陰は少なくとも最低の植樹上の留意点となる。また、設置施設を利用する上で植樹が有効に機能するように考えられねばならない場面があるということも忘れてはならない。南緑地公園を一例としてとりあげて見よう。南緑地公園は河川敷上にあり、夏季の日射は河原の反射が強く、緑陰樹がないという環境下に置かれている。リクリエーションの場として活用するには悪条件であり、ここを活用し、機能させるためには植樹の果す役割が大きい。現状の植栽樹は低木類で占められており、木陰のないことによってこの施設の利用効果を低下させている。第14表で主要樹種についてその特性の一部を挙げたが、南緑

地公園の立地条件に耐える樹種の選定が肝要である。植樹目的を達成する第一歩は、植栽樹が生育することから始まる。調査時に南緑地公園でイヌツゲの大部分の枯死を目撃した（現在は補植されている）が、イヌツゲの特性からすれば、陰樹で好肥性しかも耐水力が弱く（冠水に弱い）、大気汚染にも強くない。この点を考えれば、この条件として日射が強く、瘠地で冠水の可能性が高いという不適合性は明白になり、枯死の予測もできることになる。アジサイもまたその一つであろう。こうしたことを留意しながら緑化の促進に取り組むことが大切である。折角の緑化推進の努力を水泡に帰さないためにも、樹木の特性と植栽場所の生育環境を対応させながら、樹種の選定を進めることが、長期的に見て植樹の効果を高めることになる。

第13表 公園・緑地・遊園地の主要植栽樹種

樹種	個体数	植栽地数	主要植栽地
マサキ	710	3	花園公園, 遊園地A
ドウダンツツジ	645	2	南緑地公園, 噴水公園
ツツジ	527	4	噴水公園, 南緑地公園
ゴヨウツツジ	240	1	南緑地公園
オオムラサキ	183	2	花園公園, 噴水公園
サツキ	173	3	花園公園, ホタル公園
クヌギ	120	1	柳山公園
ケヤキ	116	7	柳山公園, 花園公園
アオキ	112	3	花園公園
ソメイヨシノ	103	6	柳山公園, 花園公園, 遊園地B
ジンチョウゲ	90	3	花園公園, ホタル公園
イヌツゲ	71	3	南緑地公園
クチナシ	64	2	ホタル公園, 噴水公園
ボケ	47	3	遊園地C, 噴水公園
コデマリ	46	2	噴水公園
ハナヅノツクバネウツギ	46	3	ホタル公園
マルバハギ	45	1	ホタル公園
キョウチクトウ	30	1	花園公園
ヒマラヤスギ	27	3	柳山公園, 花園公園
クサギ	20	1	花園公園
シンジュ	20	1	柳山公園
ウバメガシ	17	2	遊園地B
キンモクセイ	17	4	噴水公園
シダレヤナギ	16	4	噴水公園, 柳山公園
ネズミモチ	16	2	遊園地公園
シャリンバイ	12	1	噴水公園
ビヨウヤナギ	12	1	噴水公園
サザンカ	11	3	花園公園, 遊園地B, 噴水公園
シラカシ	11	3	噴水公園
イチョウ	10	2	柳山公園
ハリエンジュ	10	1	柳山公園
ポプラ	10	2	噴水公園
アジサイ	※	3	南緑地公園

註1. 一種10本以上を表示

全個体数3,923本のうち3,577本（内常緑樹1,527本）

全種類89種のうち33種（内常緑樹17種）

2. 遊園地A = 第七小学校北 遊園地B = 第二すぎの子保育園の北
遊園地C = 片倉工業段丘下

第14表 公園主要樹種の特性一覧表

マサキ	●	●		○			×		×		
ドウダンツツジ	○	○		○			×				
ツツジ	●			○					×		
ゴヨウツツジ	○			○							
オオムラサキ	●			○			○				
サツキ	●			○			×				
クスギ	○	○		○							
ケヤキ	○	○	○	○							
アオイ	●		○				×	○			
ソメイヨシノ	○	○		○			×	×	×		
ジンチョウゲ	●						×	○			
イヌツゲ	●		●	○			×	○			
クチナシ	●							○	×		
ボケ	○							○			
コデマリ	○			○							
ハナゾノツクバネウツギ	●							○			
マルバハギ	○				×		×				
キョウチクトウ	●							○	×		
ヒマラヤスギ	●		○				×				
クサギ	○										
シンジュ	○										
ウバメガシ	●							○			
キンモクセイ	●										
シダレヤナギ	○	○	○	●	×			○	×		
ネズミモチ	●		●								
シャリンバイ	○							○			
ビヨウヤナギ	○										
サザンカ	●				○		○	○	×		
イチョウ	○	○					○	○			
ハリエンジュ	○			○	×						
ポプラ	○		○	●					×		
アジサイ	○		○	●			×	×	×		
特性	項目	常落別	緑陰樹	陰陽別	耐乾湿性	肥瘠性	耐水性	大気汚染耐性	有毒性	罹病性	虫害性
	記号解説	●常緑 ○落葉	○緑陰性が高い	●陰樹 ○陽樹	○耐乾 ●耐湿	○好肥 ×耐瘠	○冠水に強い ×冠水に弱い	○対汚染 ×弱汚染	×毒性あり	×罹病しやすい	×虫害を受け易い

注 1種10個体以上、上位32種を表示